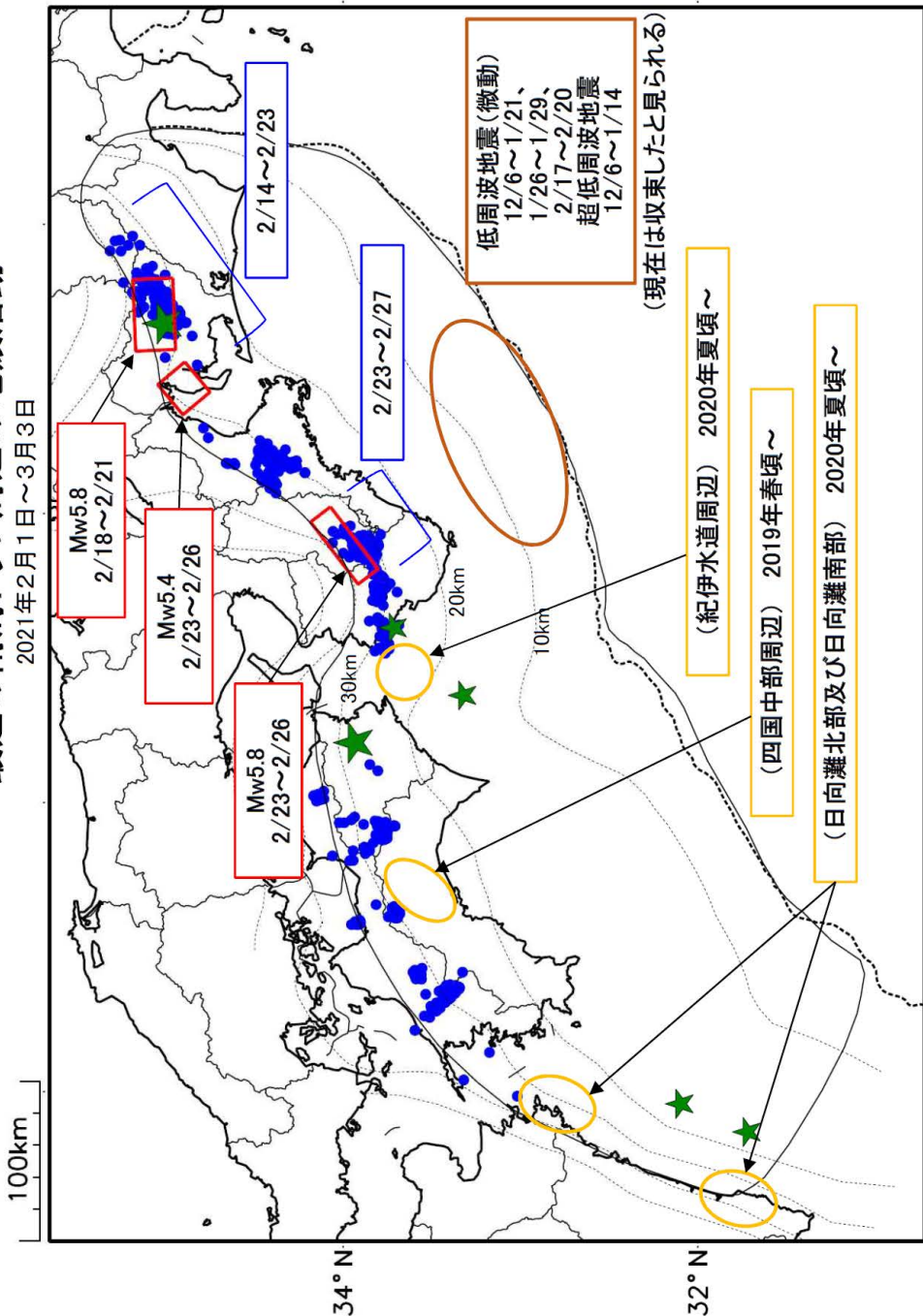


最近の南海トラフ周辺の地殻活動

2021年2月1日～3月3日



- 緑(★) 通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上)
- 青(●) 深部低周波地震(微動)
- 赤(□) 短期的ゆっくりすべり
- 黄(○) 長期的ゆっくりすべり
- 茶(○) 浅部低周波地震(微動)及び浅部超低周波地震

※地図中の点線は、Hirose et al.(2008), Baba et al.(2002)によるフィリピン海プレート上面の深さを示す。

※M5.0以上の地震に吹き出しを付けている。

132°E 134°E 136°E 138°E

通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上)………気象庁の解析結果による。  
 深部低周波地震(微動)………(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁の解析結果による。  
 短期的ゆっくりすべり………【東海】気象庁の解析結果による。【紀伊半島中部】産業技術総合研究所の解析結果による。  
 長期的ゆっくりすべり………【四国中部周辺、日向灘北部及び日向灘南部】国土地理院の解析結果を元におよその場所を表示している。  
 浅部低周波地震(微動)………【紀伊半島南東沖】防災科学技術研究所及び東京大学地震研究所の解析結果を元に活動期間及び  
 及び浅部超低周波地震 おおよその場所を表示している。

気象庁作成

令和3年2月1日～令和3年3月3日の主な地震活動

○南海トラフ巨大地震の想定震源域およびその周辺の地震活動：

【最大震度3以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震及びその他の主な地震】

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発生場所
2/1	23:30	徳島県北部	7	4.0	3	地殻内
2/8	02:26	紀伊水道	46	3.8	2	フィリピン海プレート内部
2/17	12:32	日向灘	22	3.6	1	
2/18	03:58	愛知県西部	39	4.2	3	フィリピン海プレート内部
2/25	05:44	四国沖	31	3.5	-	フィリピン海プレート内部
3/3	01:28	日向灘	25	3.7	1	

※震源の深さは、精度がやや劣るものは表記していない。

※太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く。

○深部低周波地震（微動）活動期間

四国	紀伊半島	東海
<b>■四国東部</b> 1月26日～2月3日 2月8日～9日 2月11日～14日 2月18日～19日 2月26日  <b>■四国中部</b> 2月1日 2月3日 2月18日～19日  <b>■四国西部</b> 1月30日～2月3日 2月5日 2月7日～8日 2月10日～11日 2月16日 2月18日～19日 2月26日 2月28日～3月1日 3月3日～（継続中）	<b>■紀伊半島北部</b> 2月14日～19日 2月23日 2月28日  <b>■紀伊半島中部</b> 2月19日～20日 <u>2月23日～27日</u> ・・・(2)  <b>■紀伊半島西部</b> 1月30日～2月3日 2月6日～11日 2月14日～15日 2月19日 2月21日 2月23日～25日 2月27日～28日	<u>2月14日～23日</u> ・・・(1) 2月25日～27日

※深部低周波地震（微動）活動は、気象庁一元化震源を用い、地域ごとの一連の活動（継続日数2日以上または活動日数1日の場合で複数個検知したもの）について、活動した場所ごとに記載している。

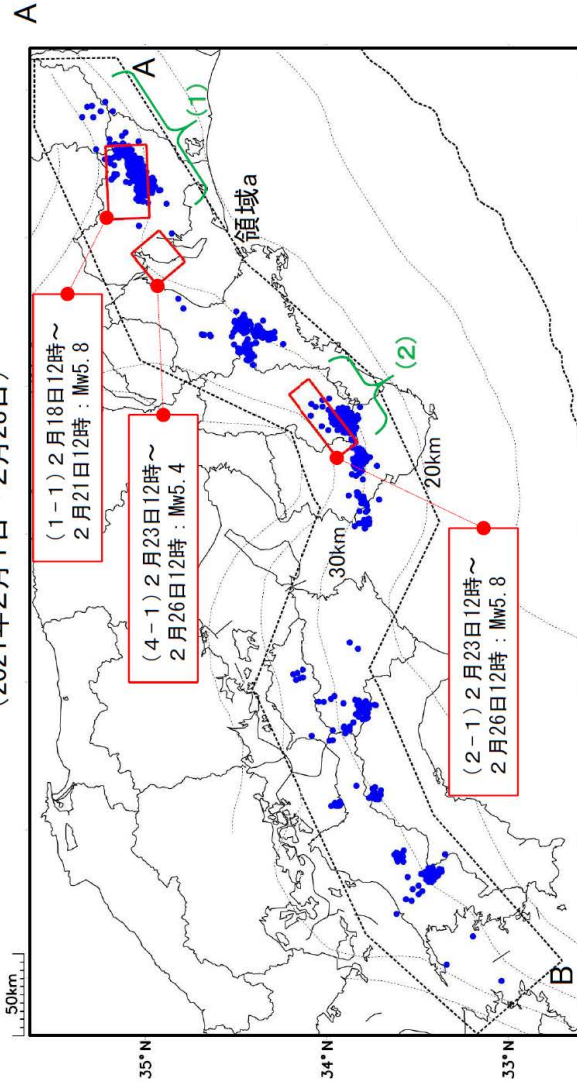
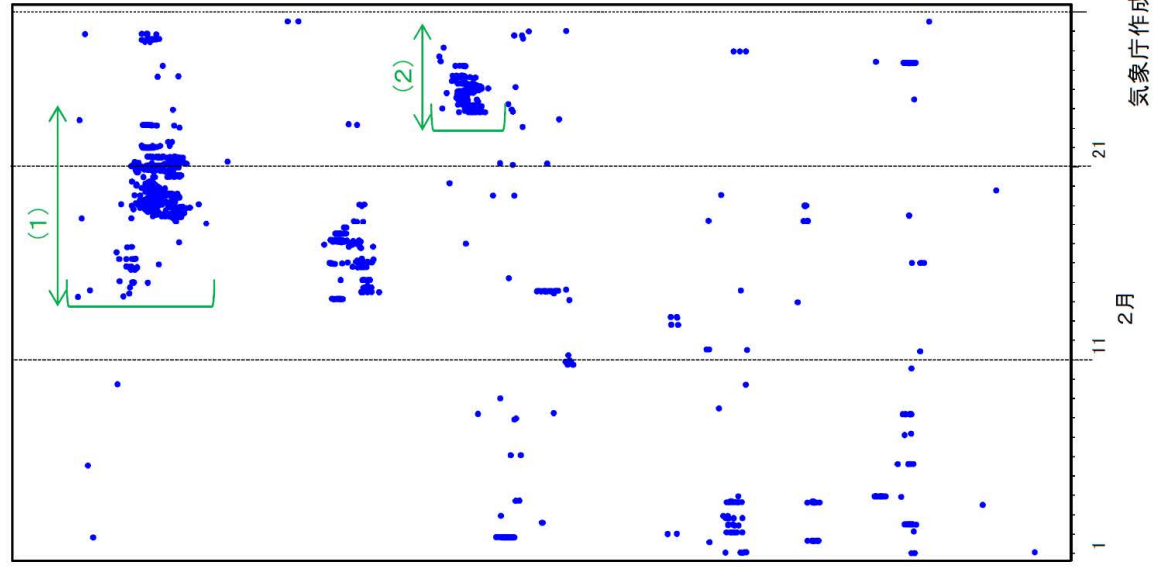
※ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動を赤字で示す。

※上の表中（1）、（2）を付した活動は、今期間、主な深部低周波地震（微動）活動として取り上げたもの。

# 深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべりの全体概要

深部低周波地震（微動）の震央分布図と短期的ゆっくりすべりの断層モデル  
 (2021年2月1日～2月28日)

領域a(点線矩形)内の深部低周波地震(微動)  
 の時空間分布図(A-B投影)



主な深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

活動場所	深部低周波地震(微動)活動の期間	短期的ゆっくりすべりの期間と規模
(1) 東海	2月14日～23日	(1-1) 2月18日12時～2月21日12時 : Mw5.8
(2) 紀伊半島中部	2月23日～27日	(2-1) 2月23日12時～2月26日12時 : Mw5.8
(4) 東海	(活動なし)	(4-1) 2月23日12時～2月26日12時 : Mw5.4

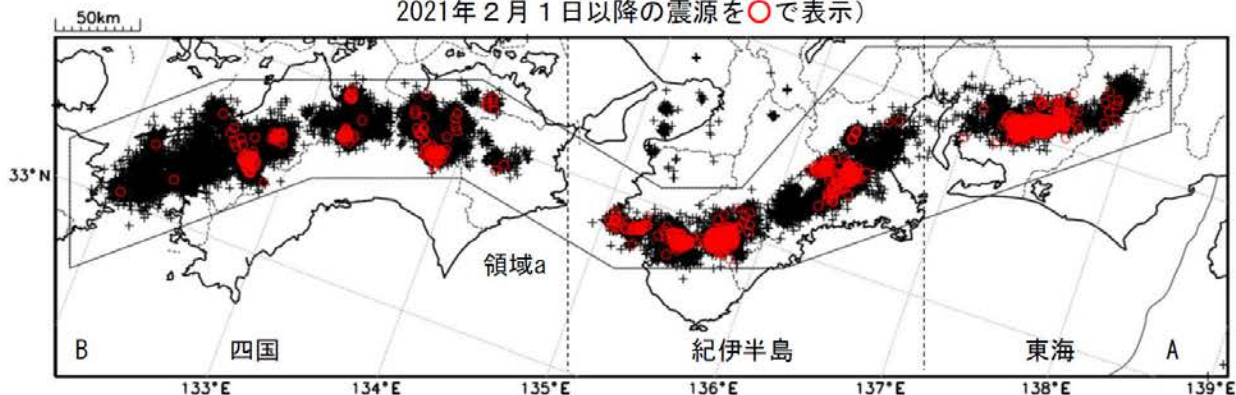
●: 深部低周波地震(微動)震央(気象庁の解析結果を示す) 期間(気象庁の解析結果を示す)  
 □: 短期的ゆっくりすべりの断層モデル(東海: 気象庁の解析結果を示す。紀伊半島中部・産業技術総合研究所の解析結果を示す。)  
 点線は、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるフィリピン海プレート上面の深さ(10kmごとの等深線)を示す。

気象庁作成

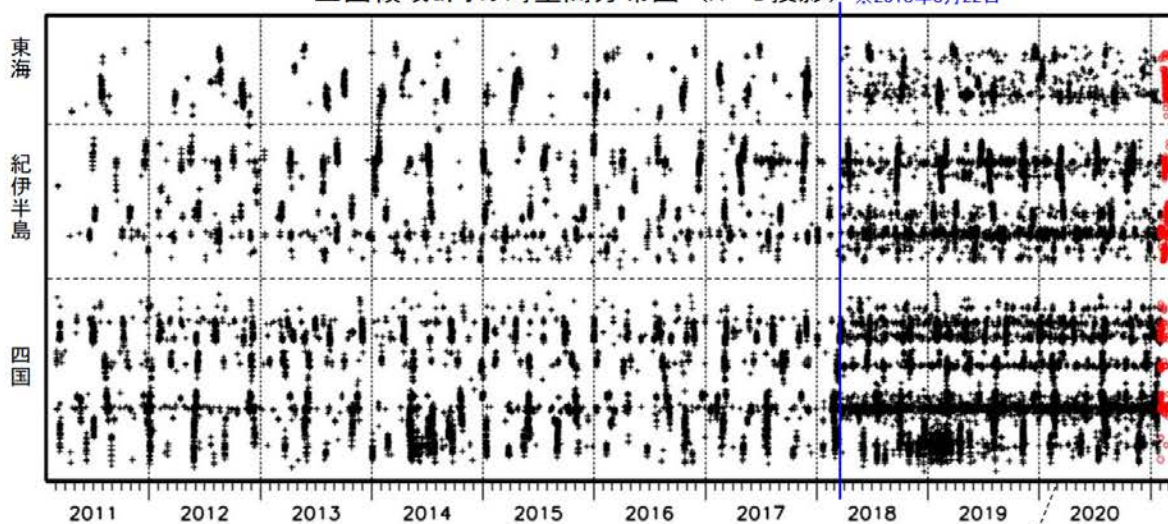
## 深部低周波地震（微動）活動（2011年3月1日～2021年2月28日）

深部低周波地震（微動）は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。

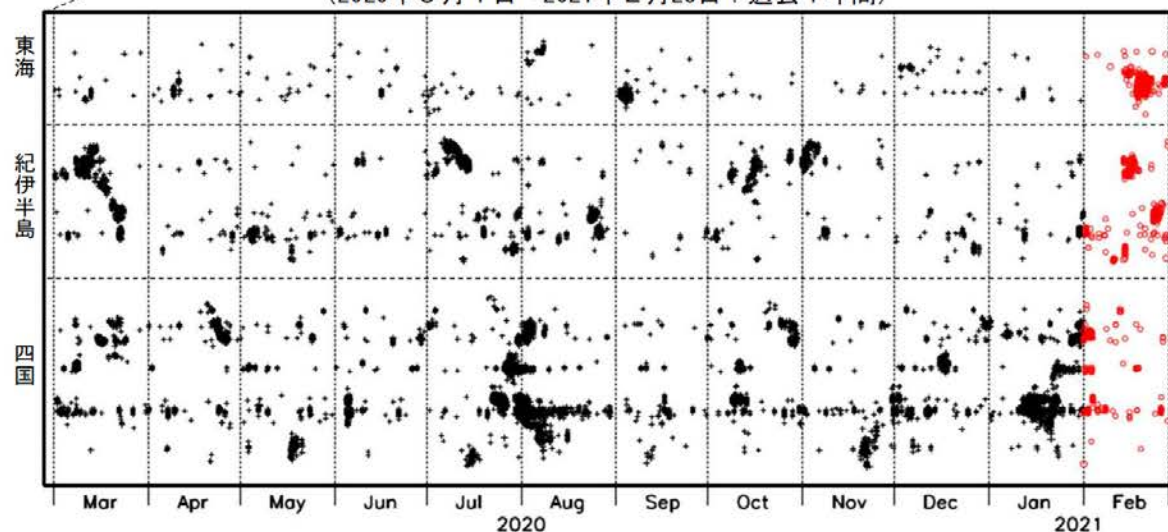
震央分布図（2011年3月1日～2021年2月28日：過去10年間  
2021年2月1日以降の震源を○で表示）



上図領域a内の時空間分布図（A-B投影） ※2018年3月22日



（2020年3月1日～2021年2月28日：過去1年間）



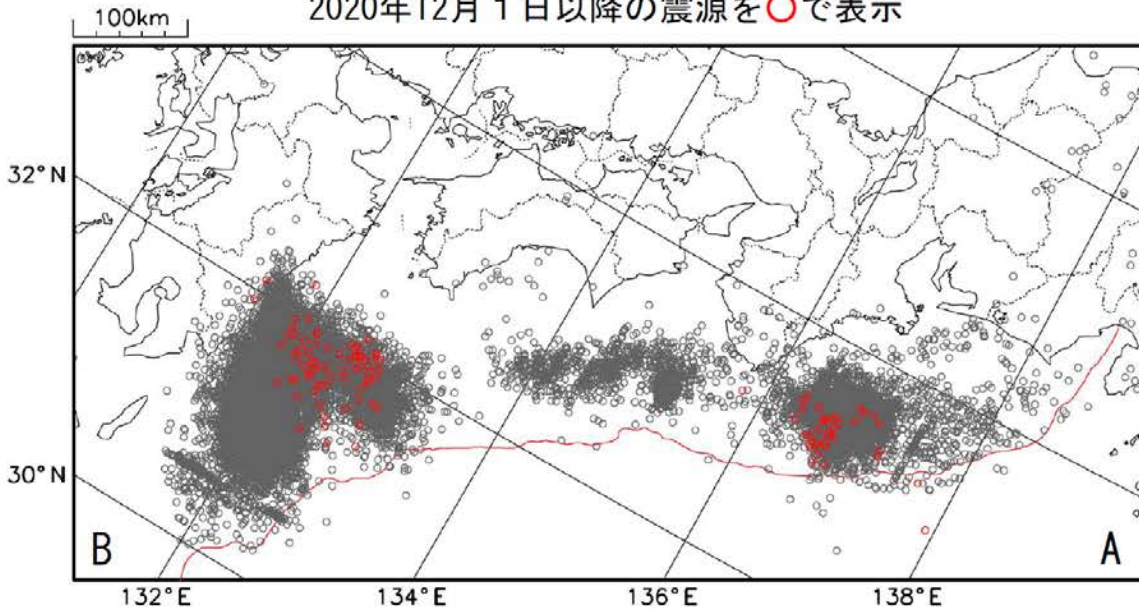
※2018年3月22日から、深部低周波地震（微動）の処理方法の変更（Matched Filter法の導入）により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

気象庁作成

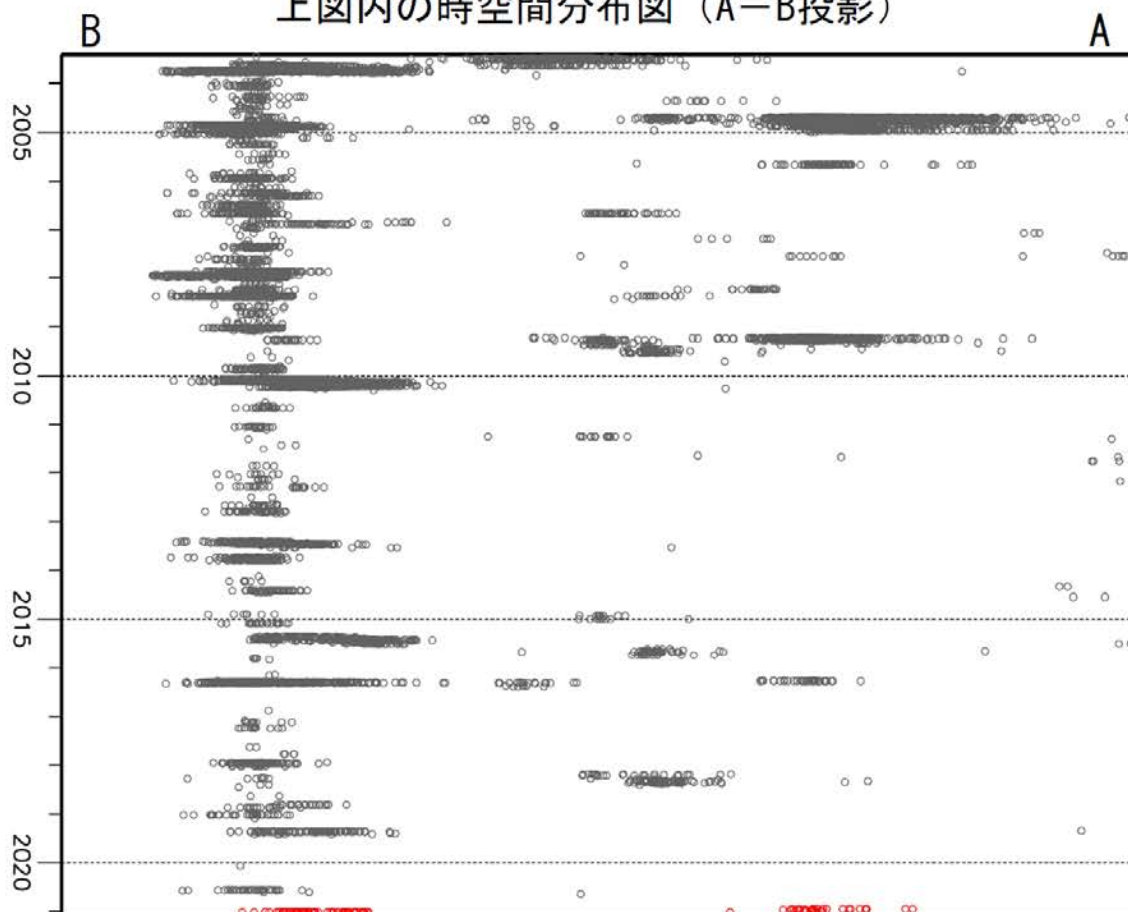
## 浅部超低周波地震活動

震央分布図（2003年6月1日～2021年1月31日）

2020年12月1日以降の震源を○で表示



上図内の時空間分布図（A-B投影）



※Asano et al.(2008)による解析結果から得られたものを示している。  
(検出アレイ数: 15以上、平面波指標: 0.85以下、円筒波指標: 0.99以上)

気象庁作成

紀伊半島・東海地域の深部低周波微動活動状況  
(2021年2月)



- 2月18～22日頃に東海地方において、やや活発な活動。
- 2月23～27日頃に紀伊半島南部において、やや活発な活動。

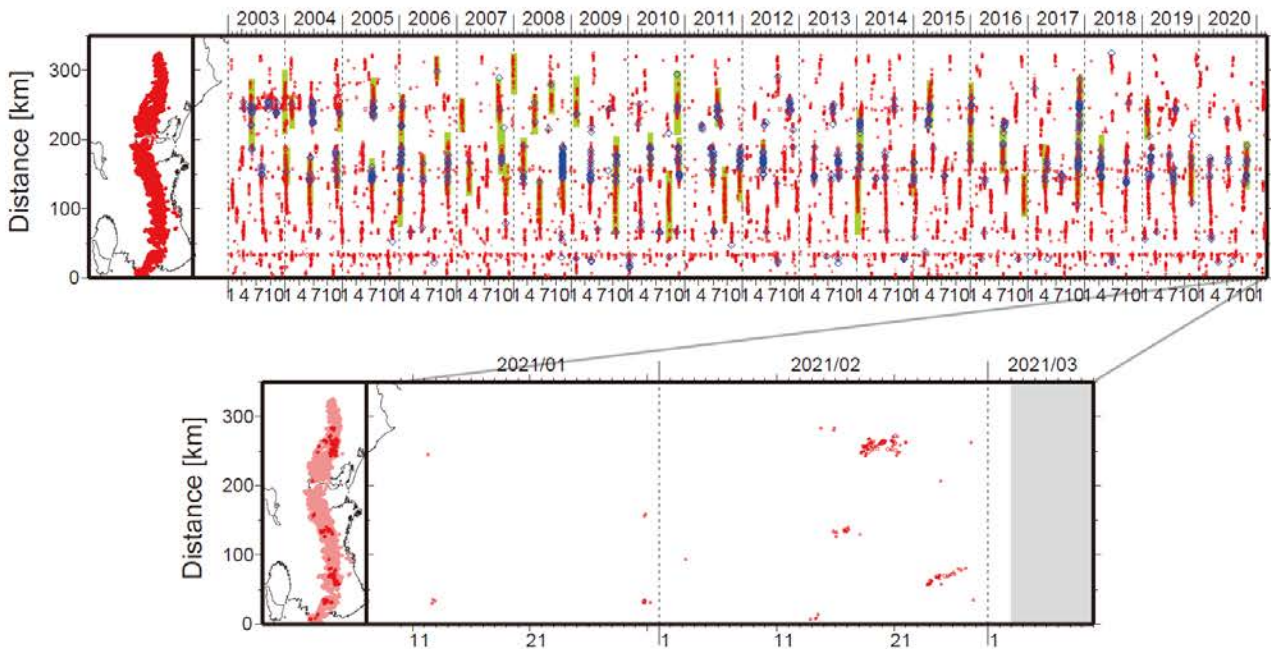


図1. 紀伊半島・東海地域における2003年1月～2021年3月2日までの深部低周波微動の時空間分布（上図）。赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスター処理 (Obara et al., 2010) によって1時間毎に自動処理された微動分布の重心である。青菱形は周期20秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である。黄緑色の太線はこれまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す。下図は2021年2月を中心とした期間の拡大図である。2月18～22日頃には愛知県東部においてやや活発な活動がみられた。この活動は20日頃にかけてやや東方向に移動がみられ、22日頃まで継続した。2月23～27日頃には奈良県南部においてやや活発な活動がみられ、北東方向への活動域の移動がみられた。2月13～14日頃には和歌山県中部において、ごく小規模な活動がみられた。2月15～17日頃には三重・奈良県境付近において小規模な活動がみられた。

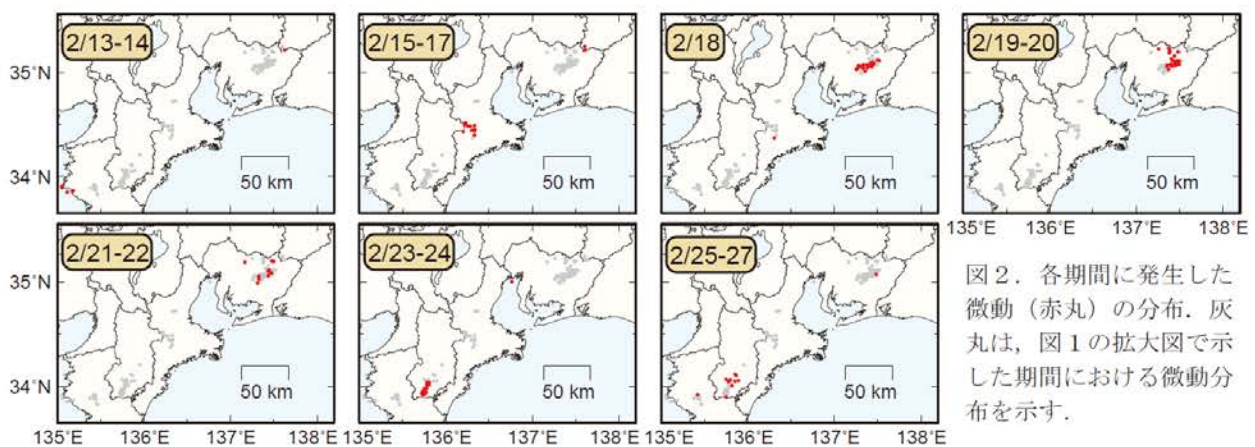


図2. 各期間に発生した微動（赤丸）の分布。灰丸は、図1の拡大図で示した期間における微動分布を示す。

## 東海から紀伊半島の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

2月14日から23日にかけて東海で深部低周波地震（微動）を観測した。

2月23日から27日にかけて紀伊半島中部で深部低周波地震（微動）を観測した。

これらの深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。また、深部低周波地震（微動）は観測されていないが、上記とは別に伊勢湾周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

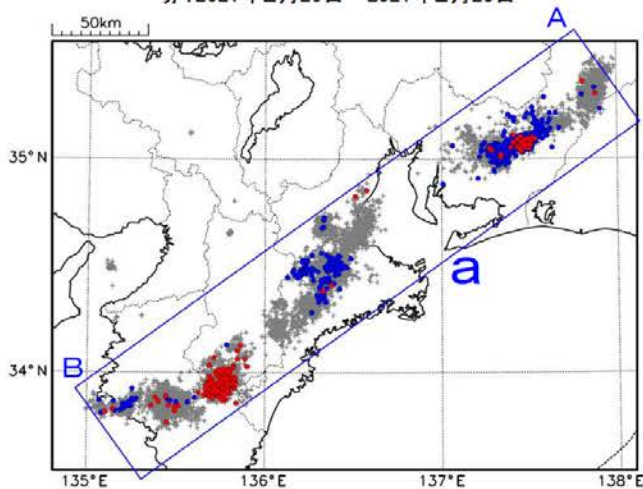
### 深部低周波地震（微動）活動

震央分布図（2018年4月1日～2021年2月28日、  
深さ0～60km、Mすべて）

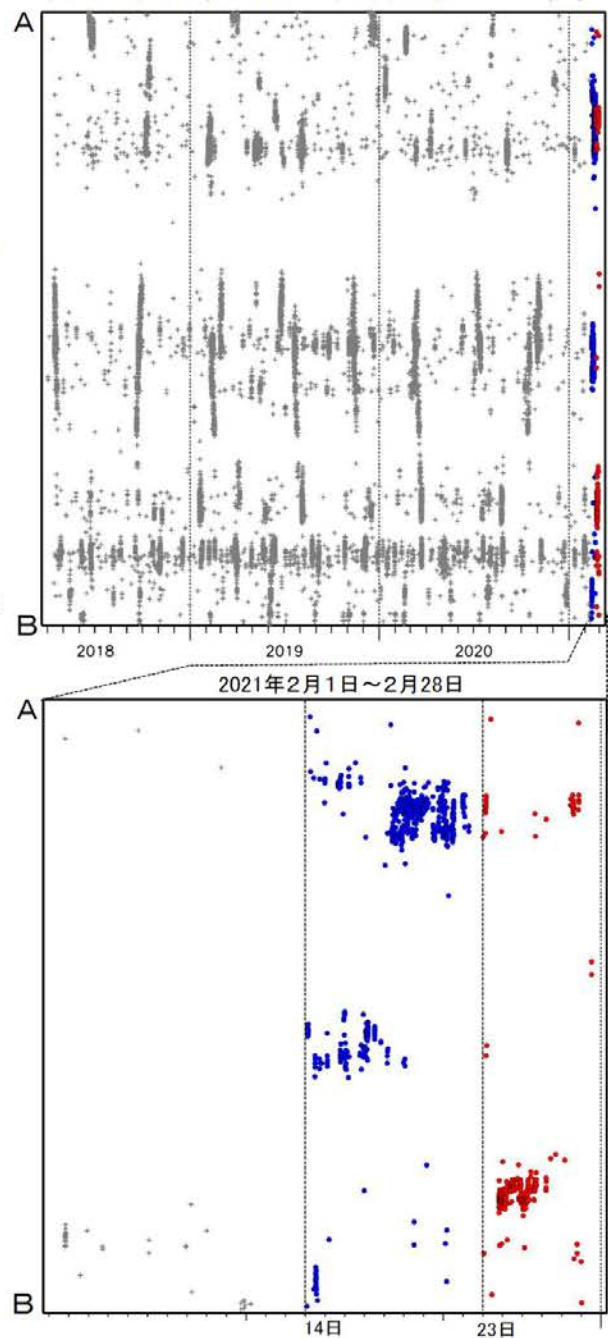
灰：2018年4月1日～2021年02月13日、

青：2021年2月14日～2021年2月22日、

赤：2021年2月23日～2021年2月28日



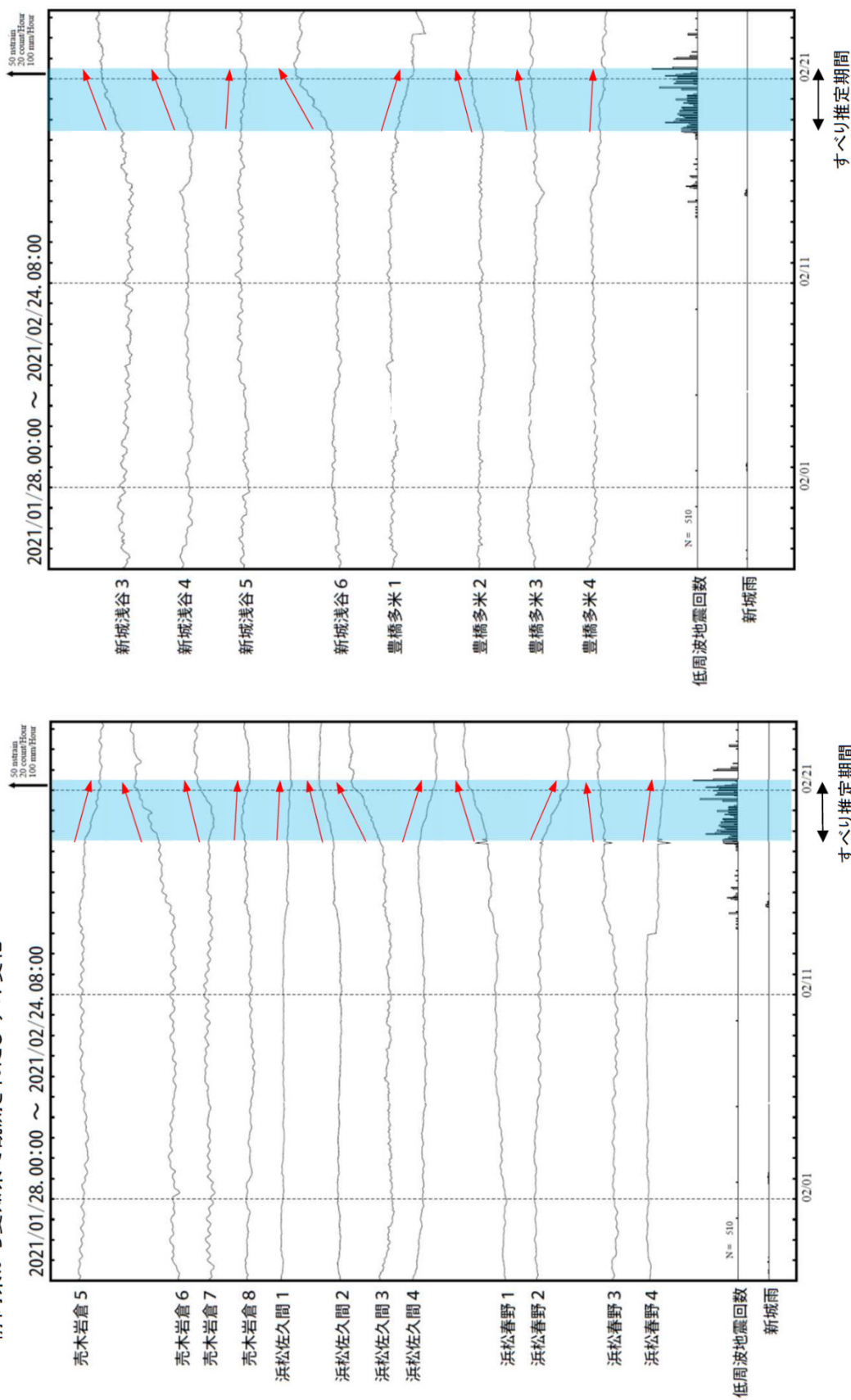
震央分布図の領域a内の時空間分布図（A-B投影）



気象庁作成

東海で観測した短期的ゆっくりすべり（2月18日～21日）

静岡県から愛知県で観測されたひずみ変化

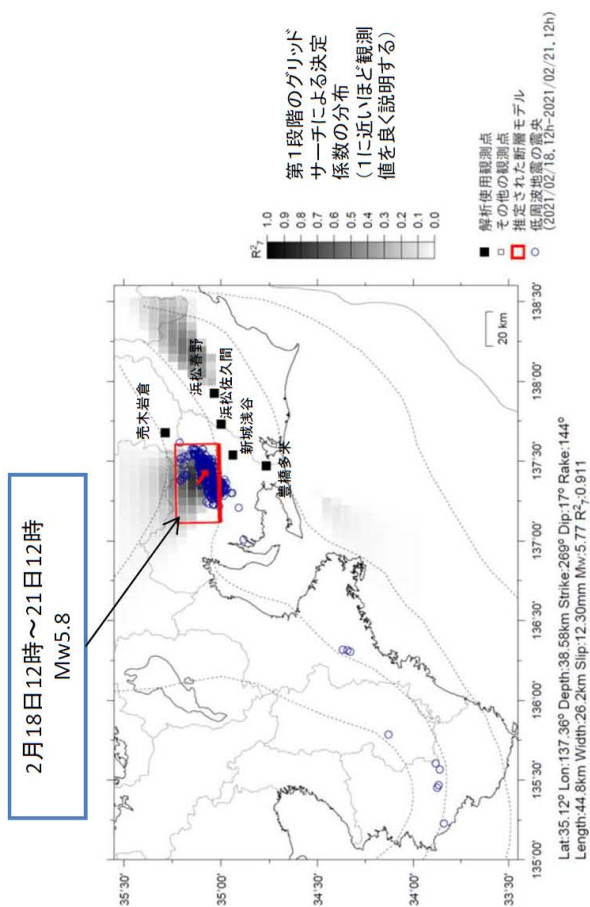


浜松春野は静岡県、豊橋多米は産業技術総合研究所のひずみ計である。

気象庁作成



東海で観測した短期的ゆっくりすべり(2月18日～21日)

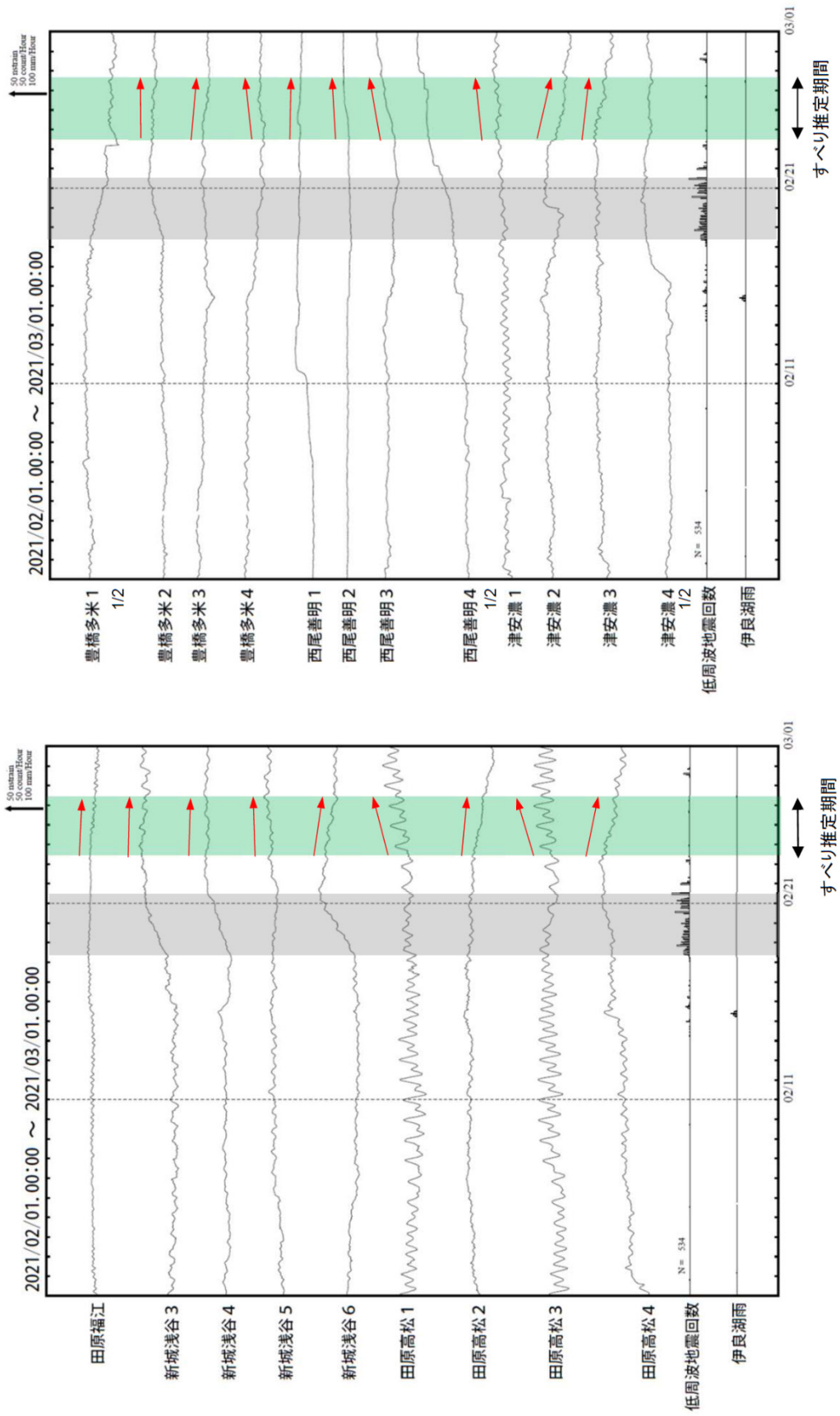


前図に観測されたひずみ観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、低周波地震とほぼ同じ場所にすべり域が求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法(坂場ほか、2012)を参考に以下の2段階で行う。  
 ・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。  
 ・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

# 東海で観測した短期的ゆっくりすべり(2月23日～26日)

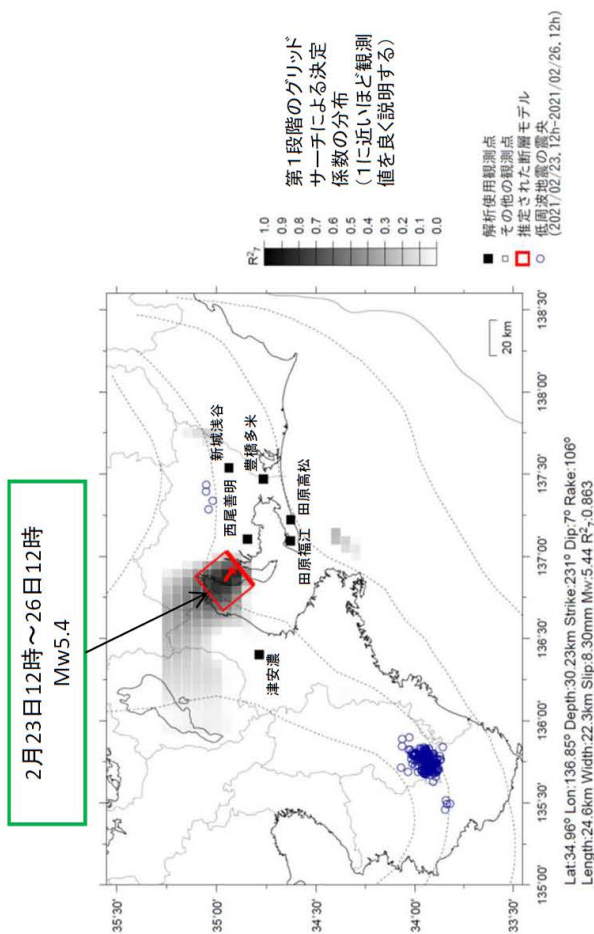
愛知県から三重県で観測されたたひずみ変化



豊橋多米、西尾善明及び津安濃は産業技術総合研究所のひずみ計である。

気象庁作成

東海で観測した短期的ゆっくりすべり(2月23日～26日)



前図に観測されたひずみ観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、上の場所ですべり域が求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか、2012)を参考に以下の2段階で行う。  
 ・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。  
 ・その位置を中心に、他の断層パラメータの最適解を求める。

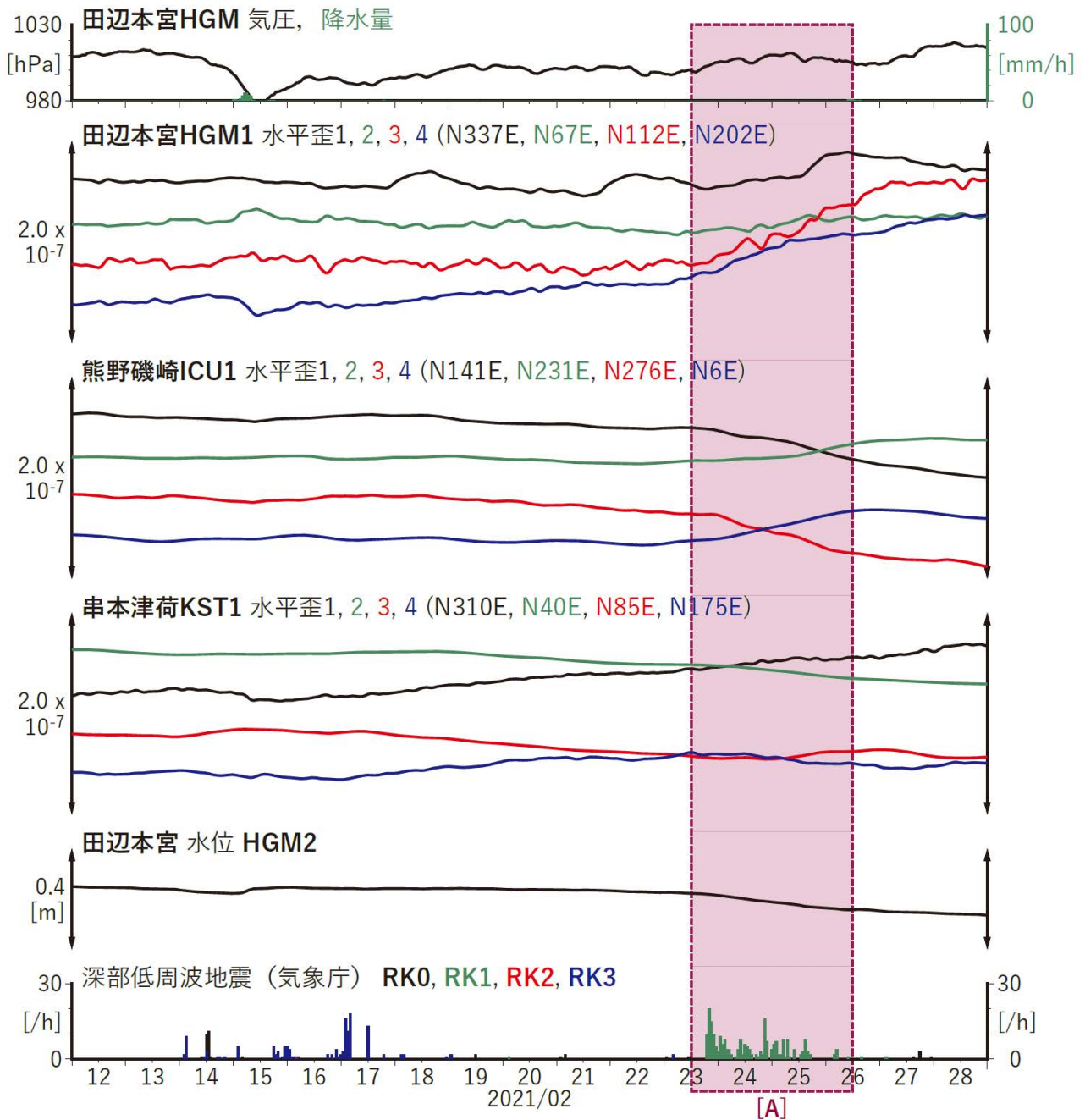
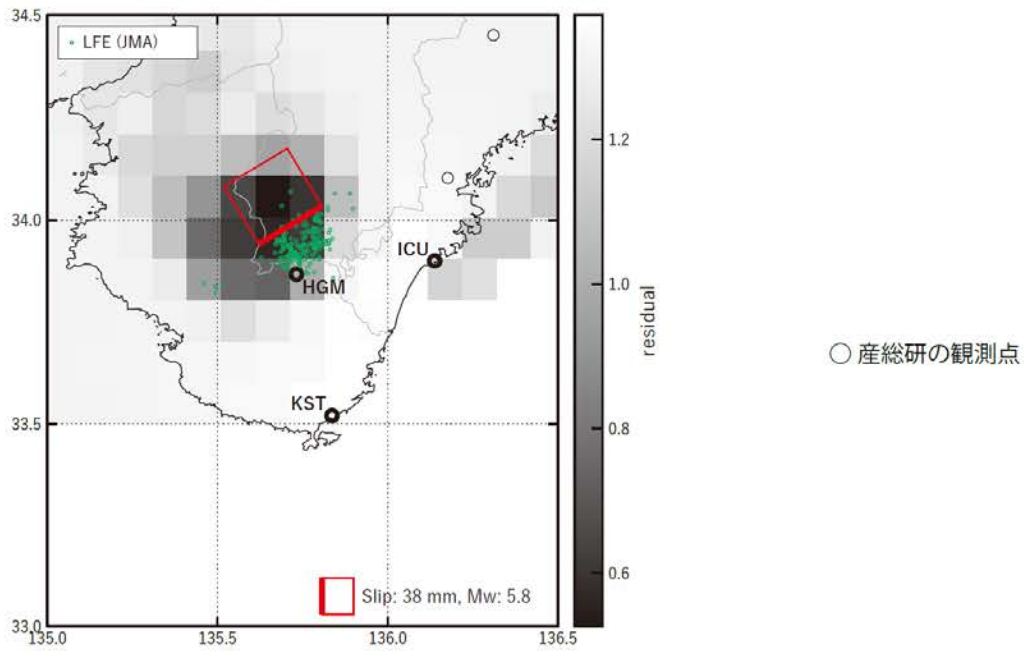


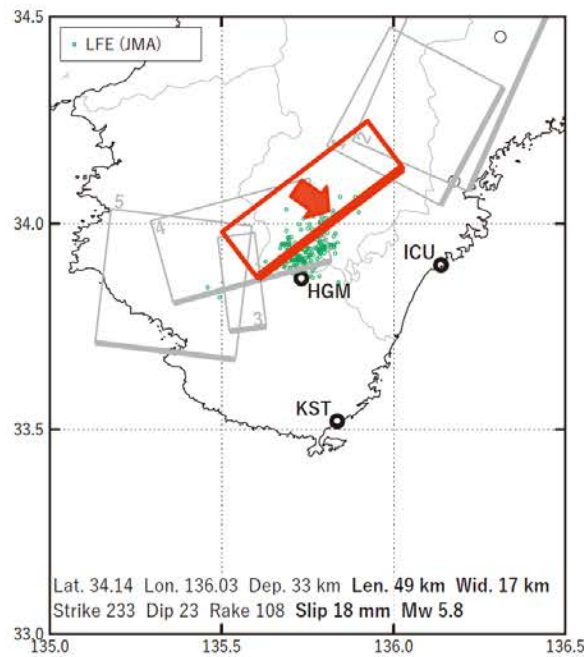
図8 歪・地下水の時間変化（2022/02/12 00:00 - 2021/03/01 00:00 (JST))

[A]2021/02/23PM-26AM

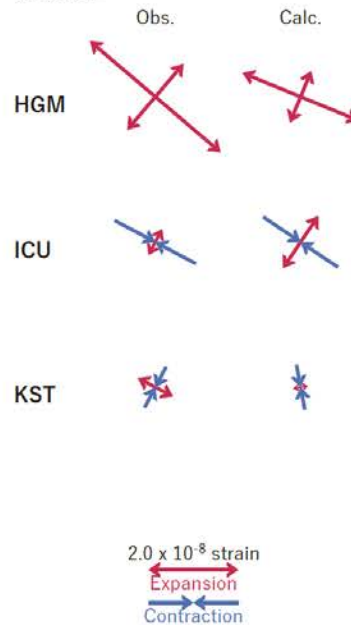
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

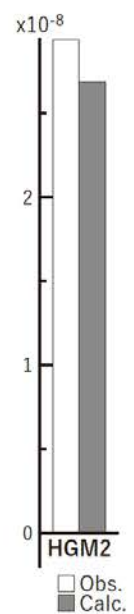


図9 2021/02/23PM - 26AM の歪・傾斜変化（図8[A]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2020/10/13PM-15AM (Mw5.7), 2: 2020/10/15PM-16AM (Mw5.6), 3: 2020/10/03PM-04 (Mw5.2)

4: 2020/08/23-26 (Mw5.8), 5: 2020/05/04-05AM (Mw5.4)

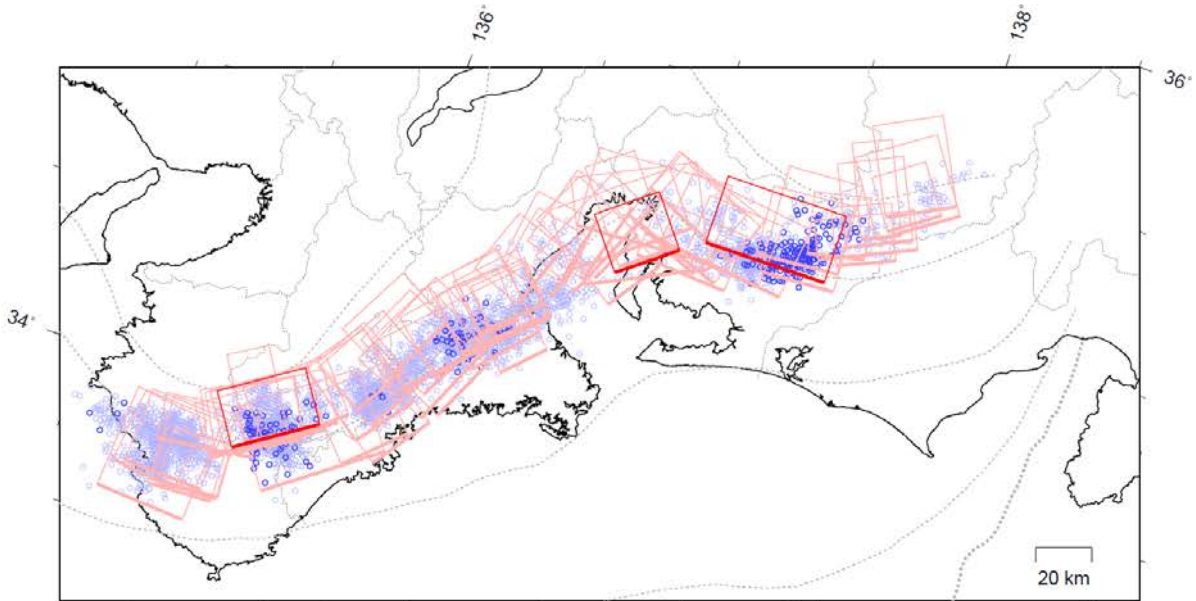
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

(b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

## 東海～紀伊半島 短期的ゆっくりすべりの活動状況

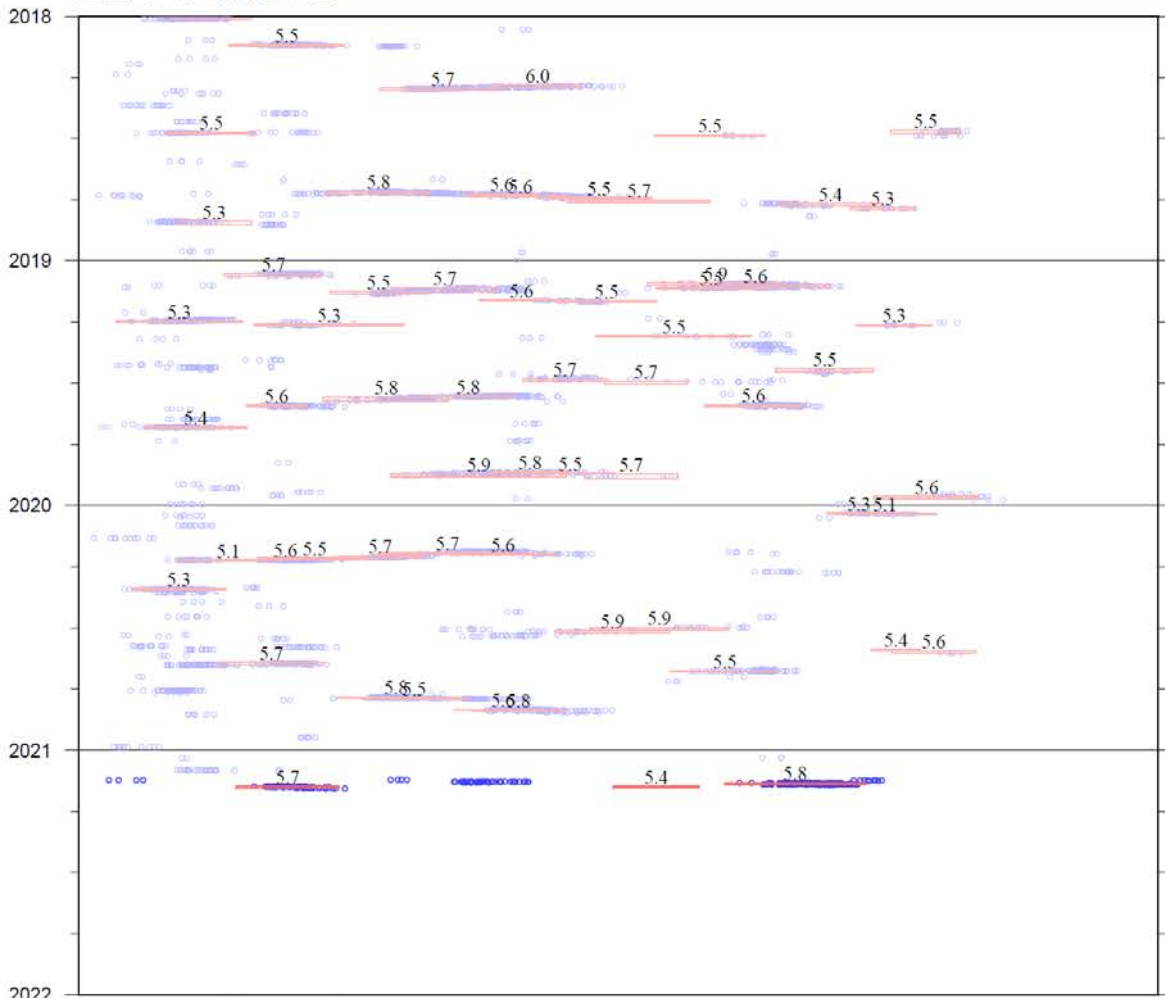
2018年1月1日～2021年2月28日

(2021年2月1日以降を濃く表示)



※破線は、フィリピン海プレート上面の等深線を示す。  
 ※赤矩形は、気象庁による短期的ゆっくりすべりの断層モデル（参考解を含む）を示す。

### 上図の時空間分布図



※短期的ゆっくりすべりの解析には、気象庁、産業技術総合研究所及び静岡県データのデータを用いている。  
 ※赤矩形の上に表示されている数字は解析されたMwを示す。  
 ※青丸はエンベロープ相関法（防災科学技術研究所、東京大学地震研究所との共同研究による成果）で得られた低周波微動の震央を示す。

気象庁作成

四国の深部低周波微動活動状況（2021年2月）



防災科研



● 1月27日～2月3日頃に四国東部において、やや活発な微動活動。

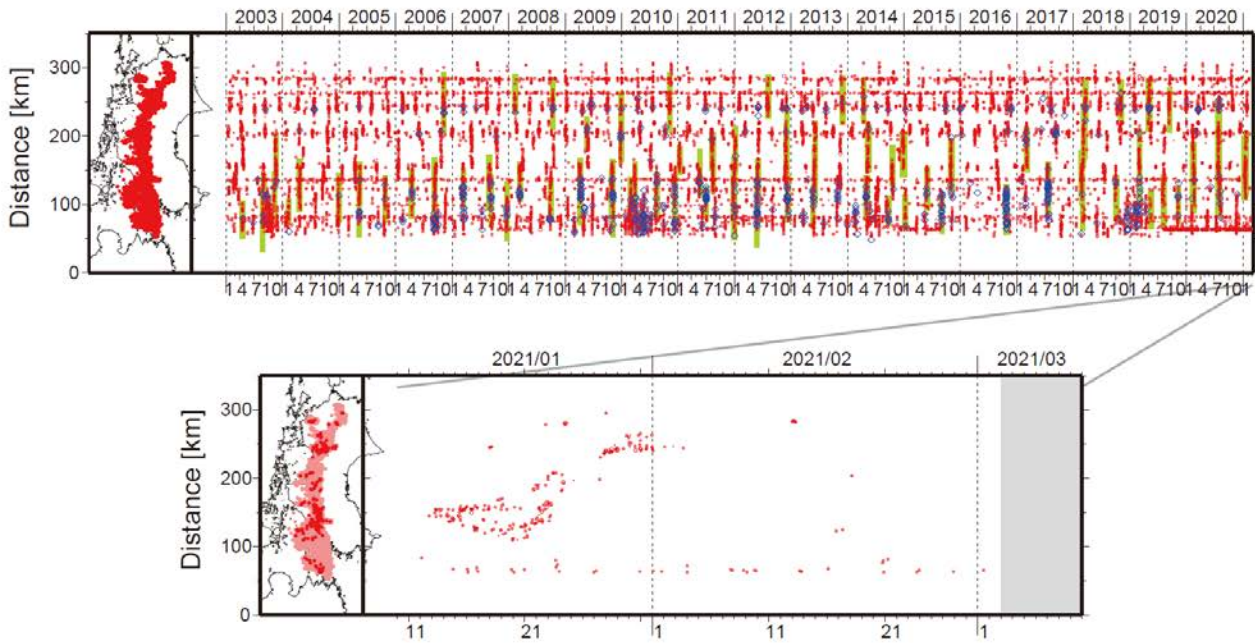


図1. 四国における2003年1月～2021年3月2日までの深部低周波微動の時空間分布(上图). 赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスター処理 (Obara et al., 2010) によって1時間毎に自動処理された微動分布の重心である. 青菱形は周期20秒に卓越する超低周波地震(Ito et al., 2007)である. 黄緑色太線は、これまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す. 下图は2021年2月を中心とした期間の拡大図である. 1月27日～2月3日頃には、愛媛・香川・徳島県境付近から徳島県中部においてやや活発な微動活動がみられた. この活動では、東方向への活動域の拡大がみられた. その他の活動としては、2月13日頃に香川県においてごく小規模な活動がみられた.

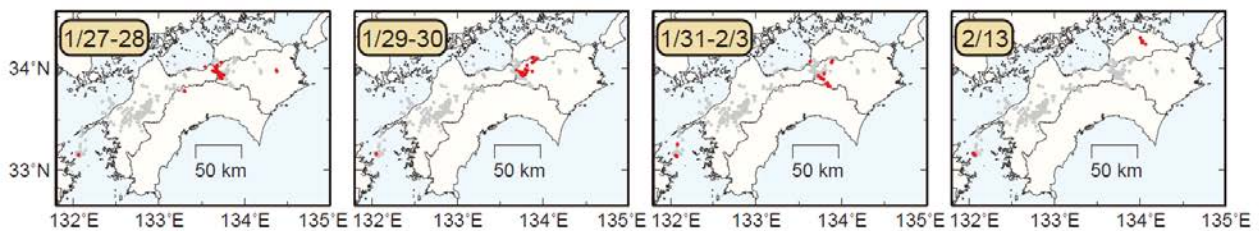
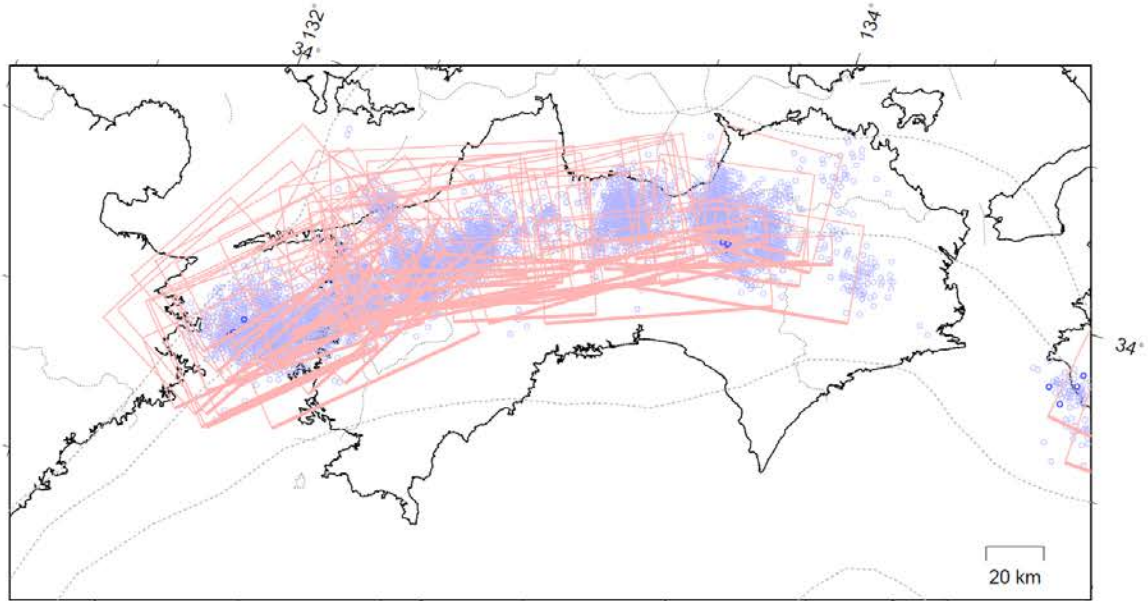


図2. 各期間に発生した微動分布 (赤丸). 灰丸は図1の拡大図で示した期間の微動分布.

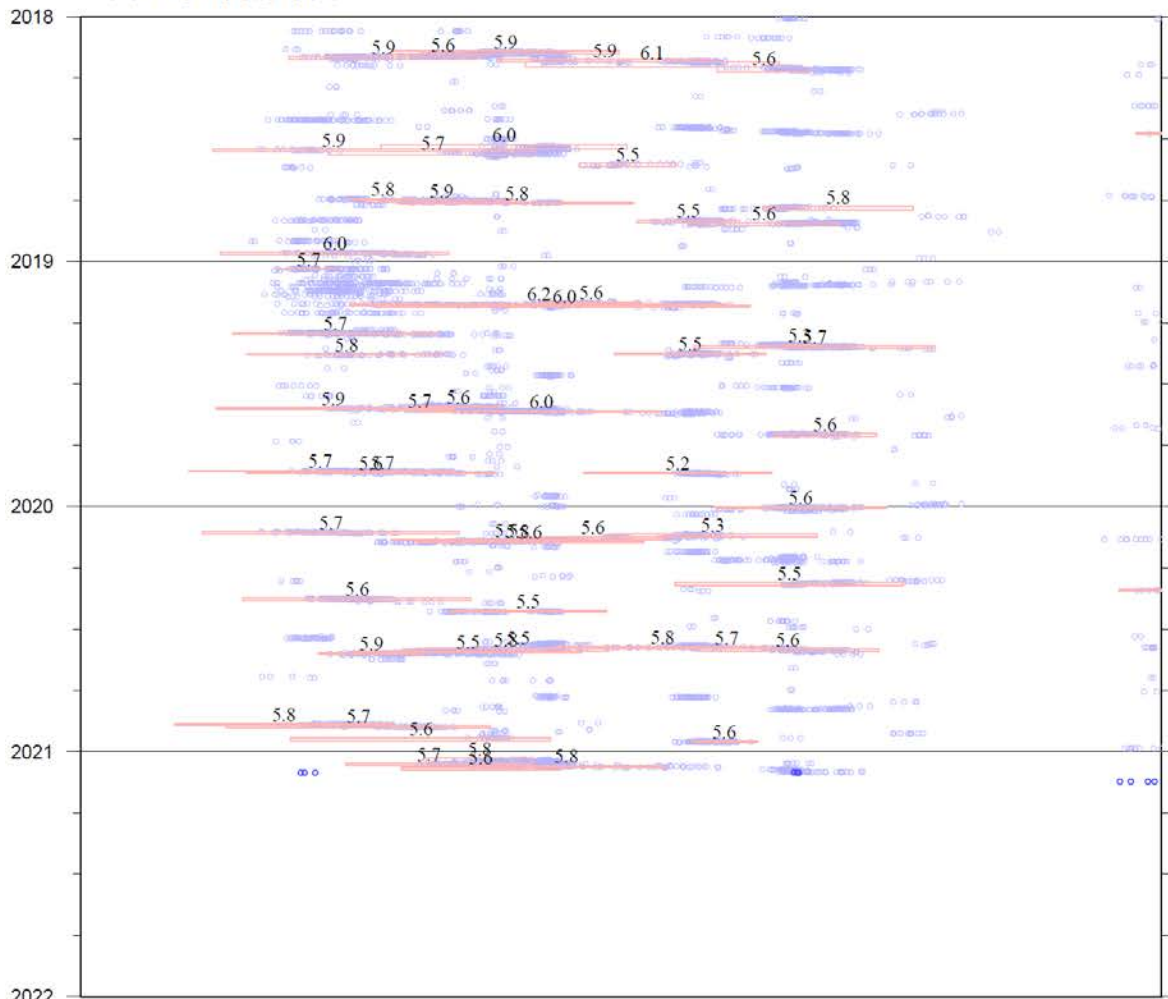
## 四国 短期的ゆっくりすべりの活動状況

2018年1月1日～2021年2月28日  
 (2021年2月1日以降を濃く表示)



※破線は、フィリピン海プレート上面の等深線を示す。  
 ※赤矩形は、産業技術総合研究所による短期的ゆっくりすべりの断層モデルを示す。

上図の時空間分布図



※短期的ゆっくりすべりの解析には、産業技術総合研究所及び防災科学技術研究所のデータを用いている。  
 ※赤矩形の上に表示されている数字は解析されたMwを示す。  
 ※青丸はエンベロープ相関法（防災科学技術研究所、東京大学地震研究所との共同研究による成果）で得られた低周波微動の震央を示す。

気象庁作成

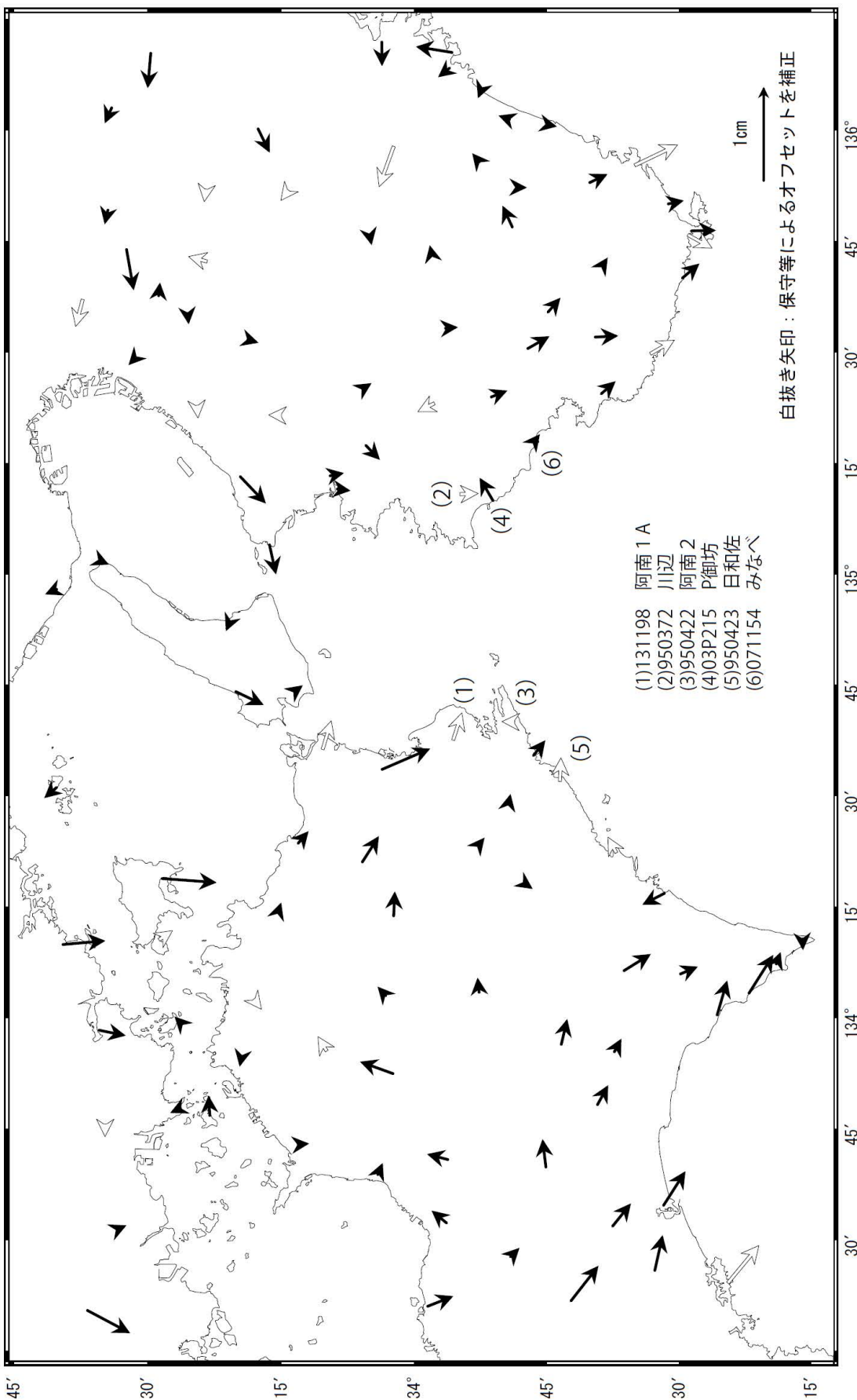


（国土地理院による GNSS 解析）

紀伊半島西部・四国東部の非定常水平地殻変動（1次トレンチ・年周期・半年周期除去後）

基準期間：2020/05/29～2020/06/04 [F3: 最終解]  
比較期間：2021/02/17～2021/02/23 [R3: 速報解]

計算期間：2017/01/01～2017/12/31



固定局：網野 (960640)

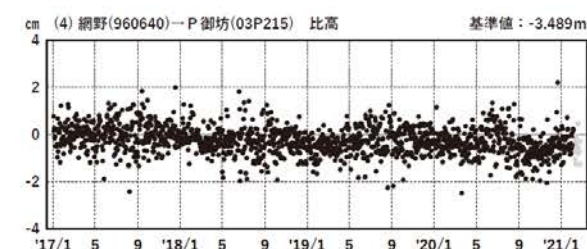
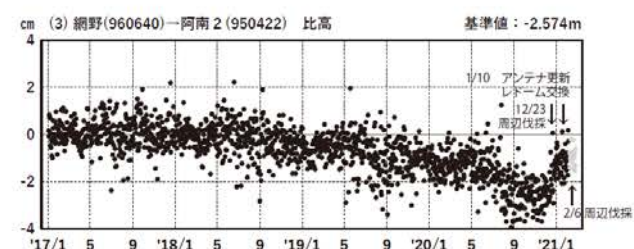
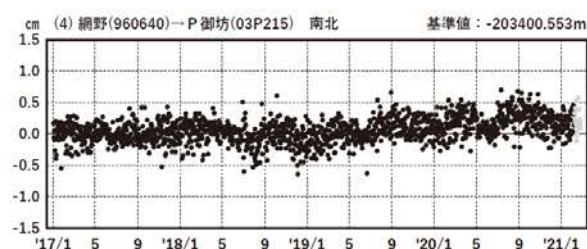
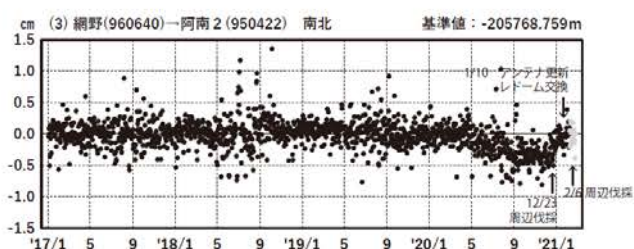
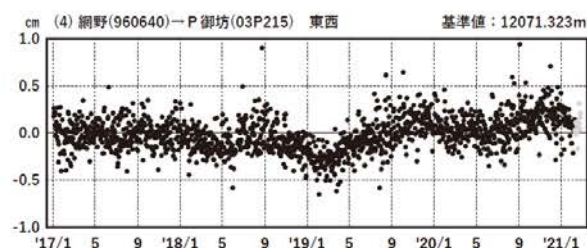
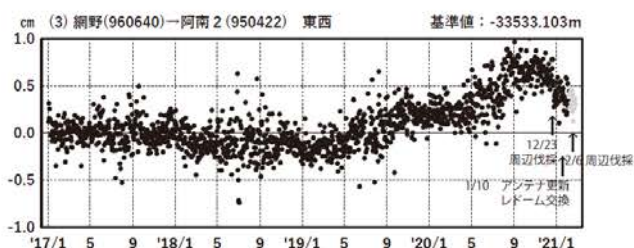
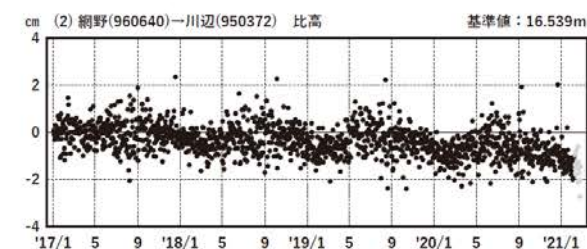
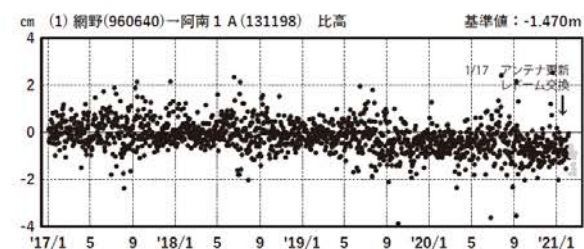
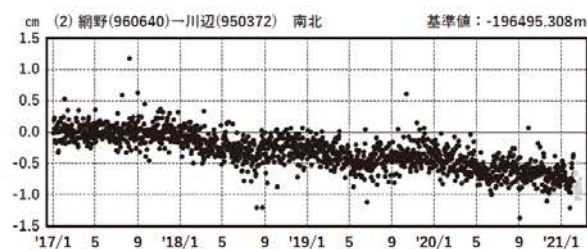
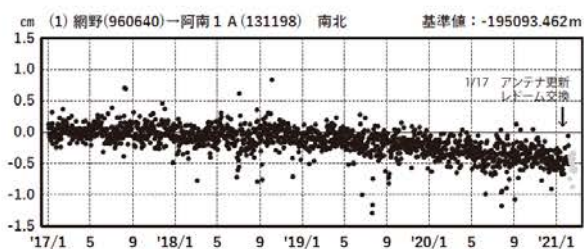
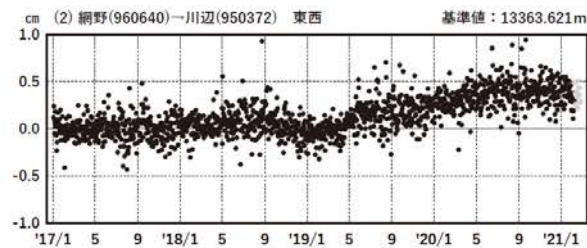
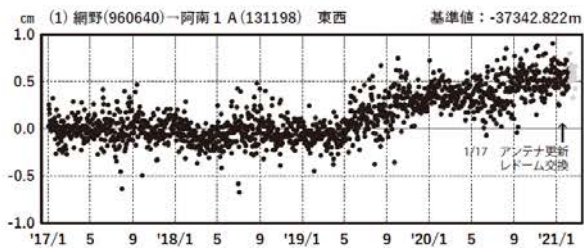
国土地理院

## 紀伊半島西部・四国東部 G N S S 連続観測時系列 (1)

1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

期間: 2017/01/01~2021/02/24 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01



●---[F3:最終解] ●---[R3:速報解]

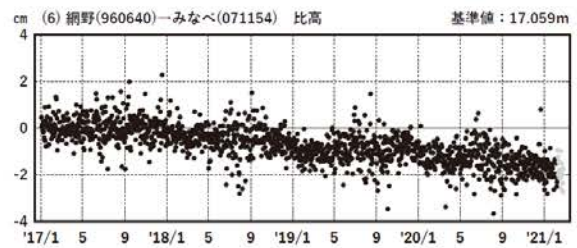
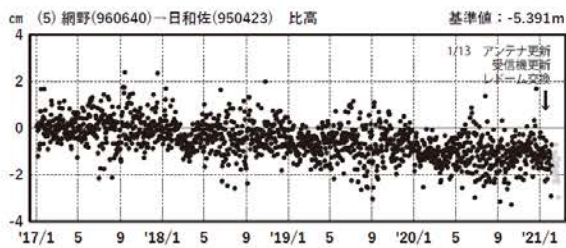
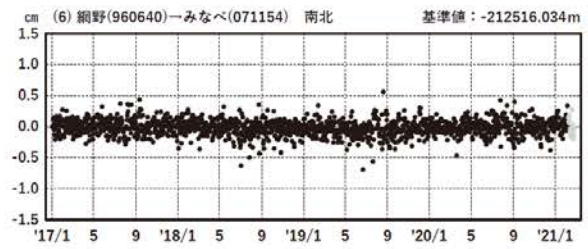
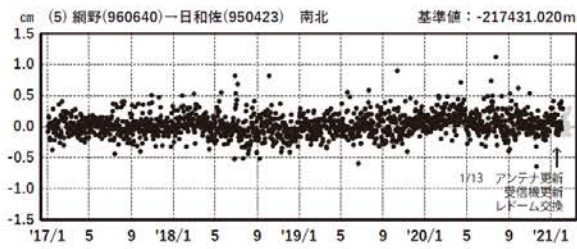
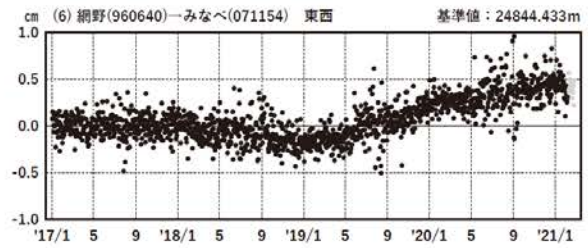
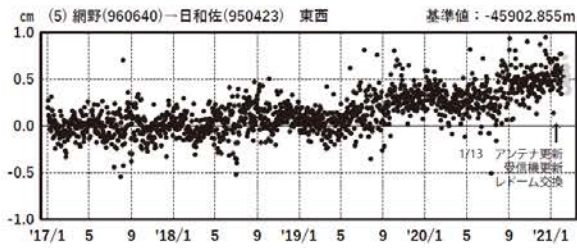
国土地理院

## 紀伊半島西部・四国東部 GNS連続観測時系列(2)

### 1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

期間: 2017/01/01~2021/02/24 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01



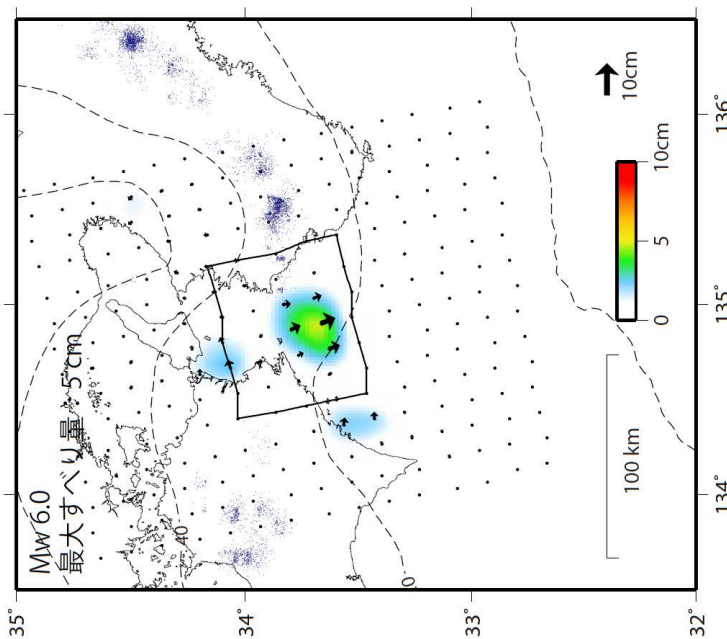
※2021年2月以降の保守等によるオフセットは補正していない。

●---[F3:最終解]    ●---[R3:速報解]

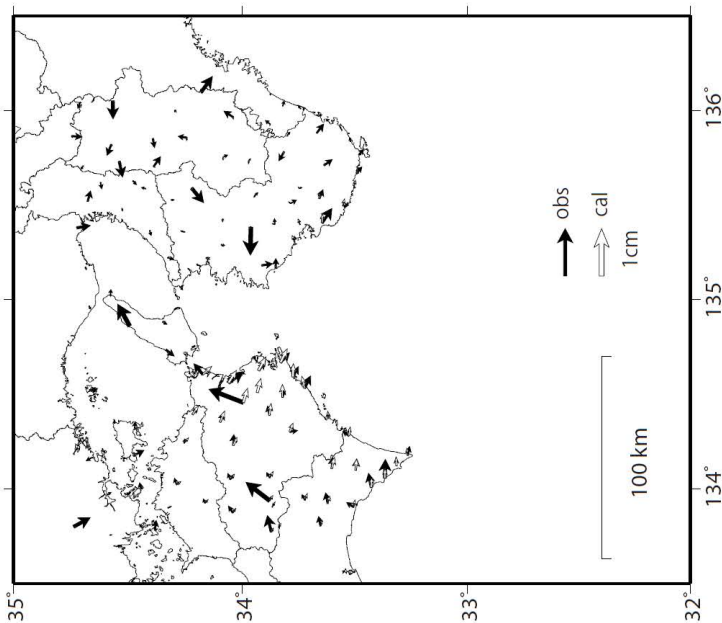
国土地理院

GNSSデータから推定された  
紀伊水道の長期的ゆっくりすべり（暫定）

推定すべり分布  
(2020/6/1 - 2021/2/9)



観測値（黒）と計算値（白）の比較  
(2020/6/1 - 2021/2/9)



使用データ：F3解 (2018/1/1 - 2021/1/23) + R3解 (2021/1/24 - 2021/2/9) ※電子基準点の保守等による変動は補正済み  
トレンジ期間：2017/1/1 - 2018/1/1 (年周・半年周成分は 2017/1/1 - 2021/2/9 のデータで補正)

モーメント計算範囲：左図の黒枠内側

観測値：3日間の平均値をカルマンフィルタで平滑化した値

黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線 (弘瀬・他、2007)

すべり方向：東向きから南向きの範囲に拘束

青丸：低周波地震 (気象庁一元化震源) (期間：2019/1/1 - 2019/12/31)

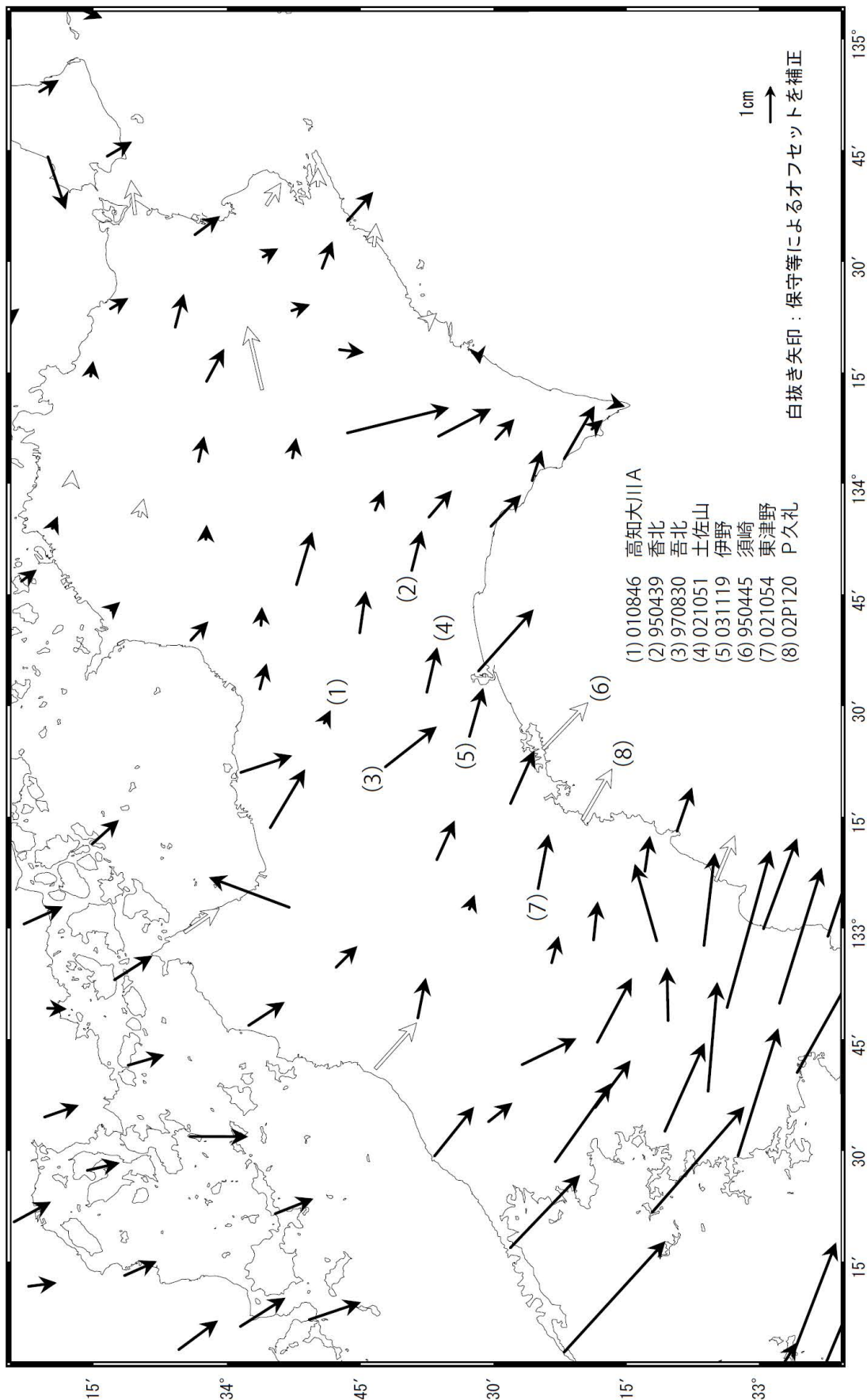
固定局：網野

（国土地理院による GNSS 解析）

四国中部の非定常水平地殻変動（1次トレンド・年周期・半年周期除去後）

基準期間：2017/12/29～2018/01/04 [F3:最終解]  
比較期間：2021/02/14～2021/02/20 [R3:速報解]

計算期間：2017/01/01～2018/01/01



固定局：網野 (960640)

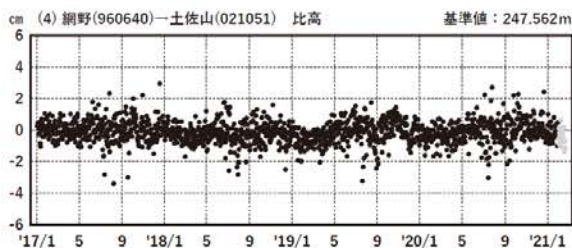
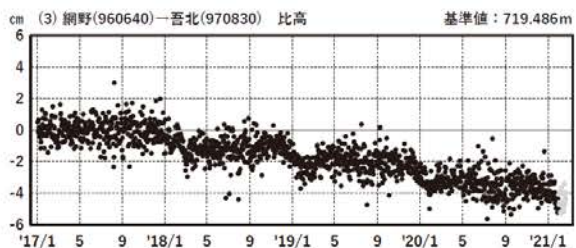
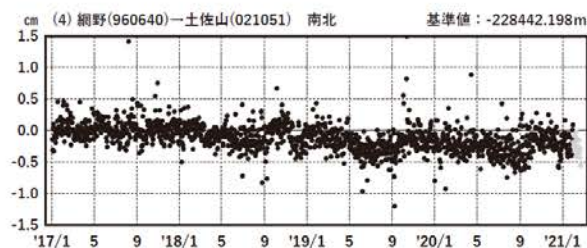
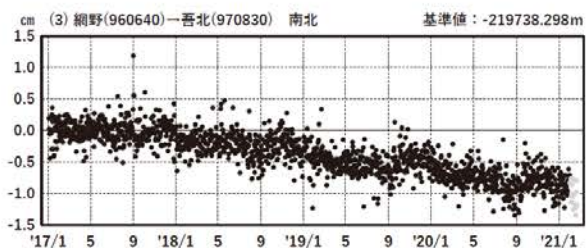
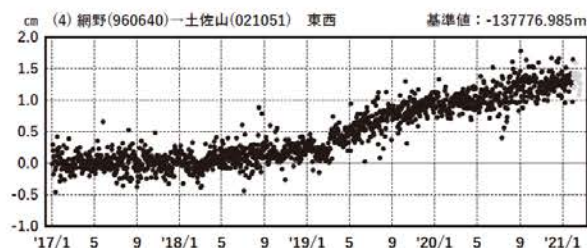
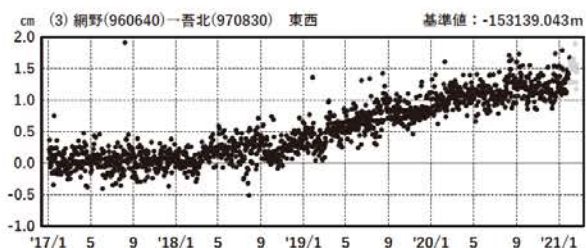
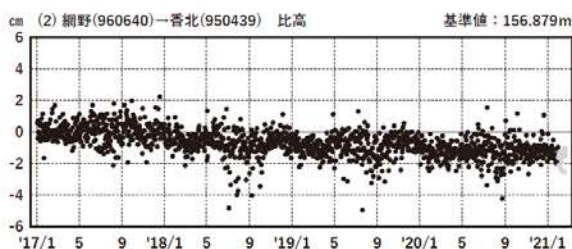
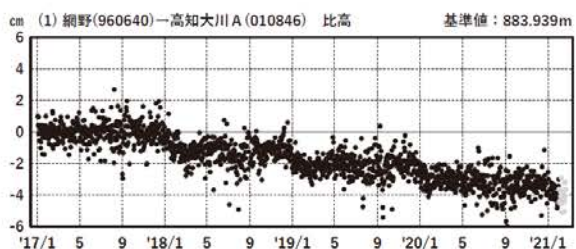
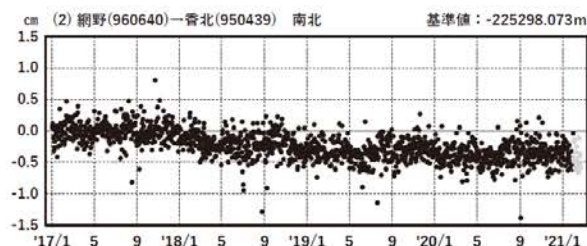
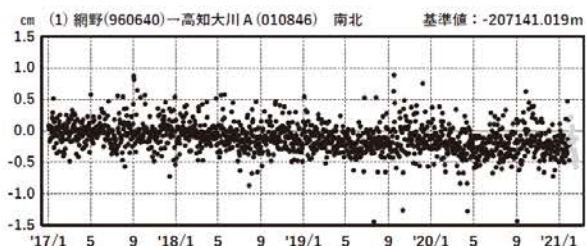
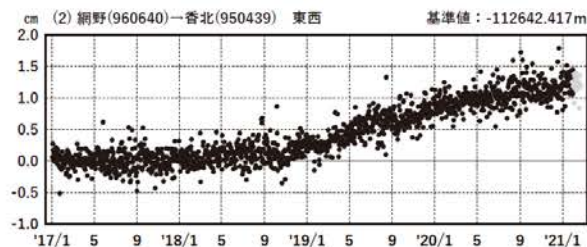
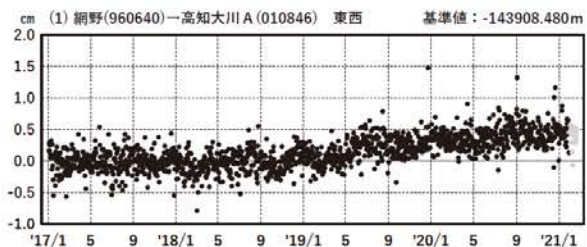
国土地理院

### 四国中部 G N S S 連続観測時系列 (1)

1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

期間: 2017/01/01~2021/2/21 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01



●---[F3:最終解] ●---[R3:速報解]

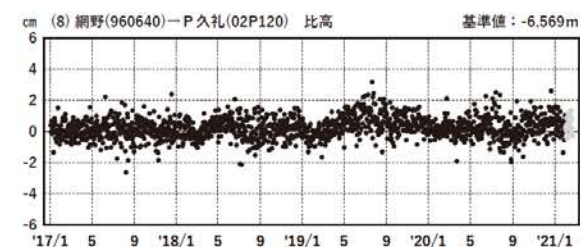
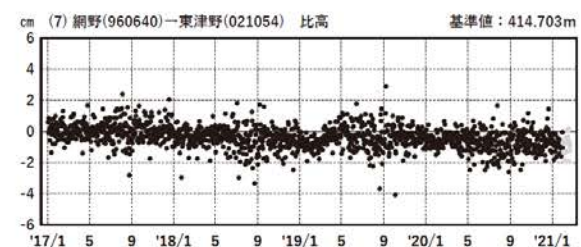
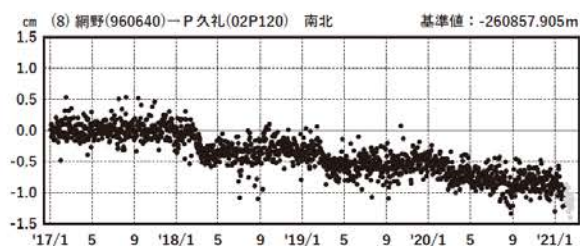
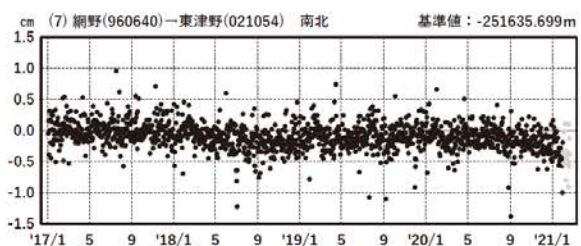
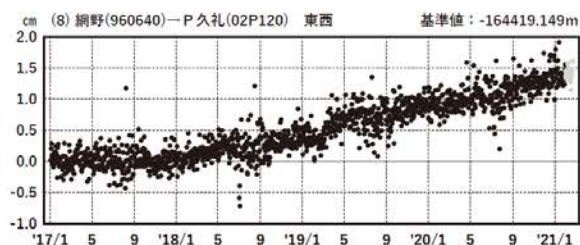
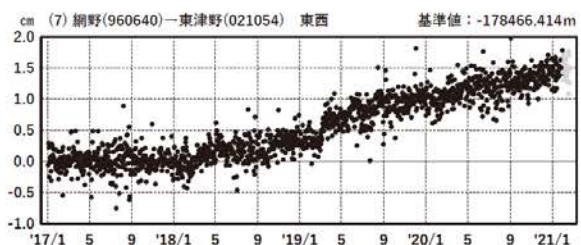
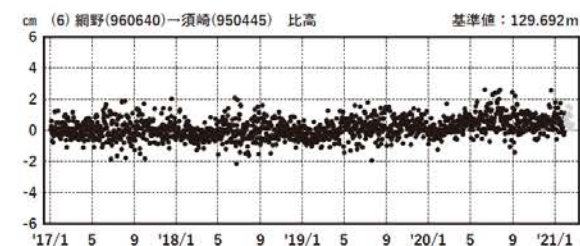
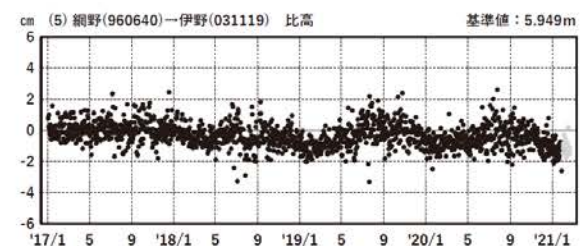
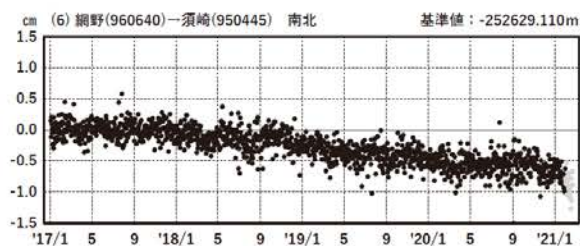
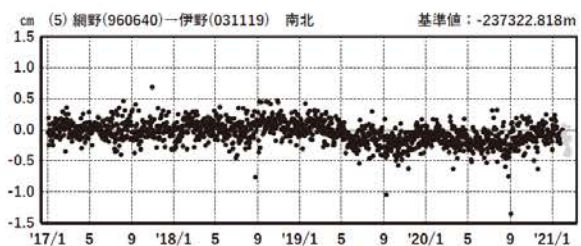
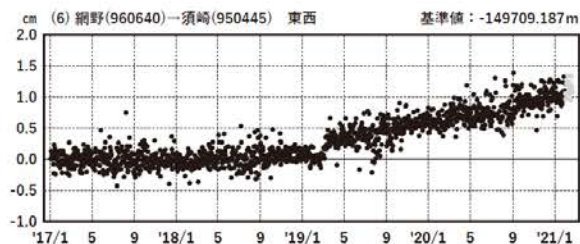
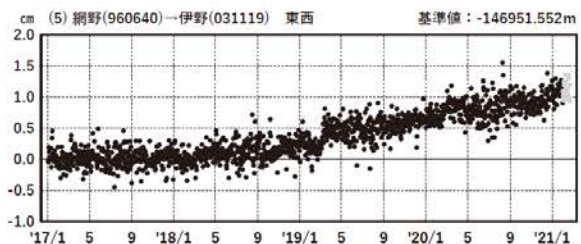
国土地理院

## 四国中部 G N S S連続観測時系列 (2)

### 1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

期間: 2017/01/01~2021/2/21 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01

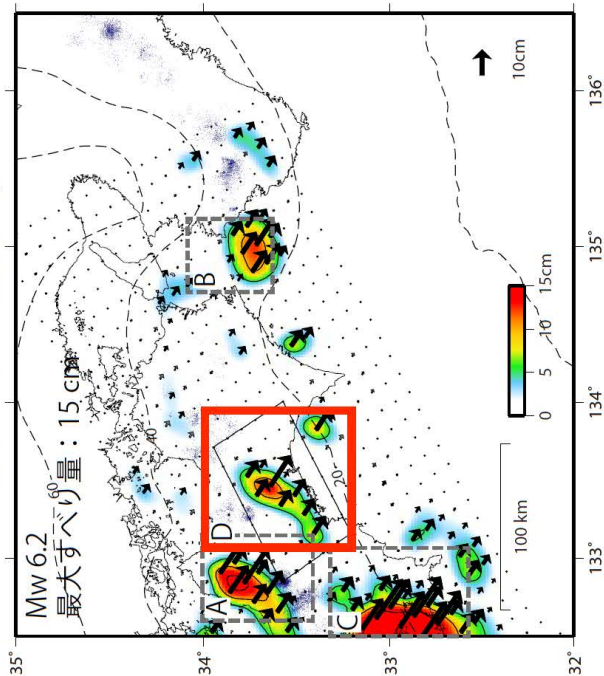


●---[F3:最終解] ●---[R3:速報解]

国土地理院

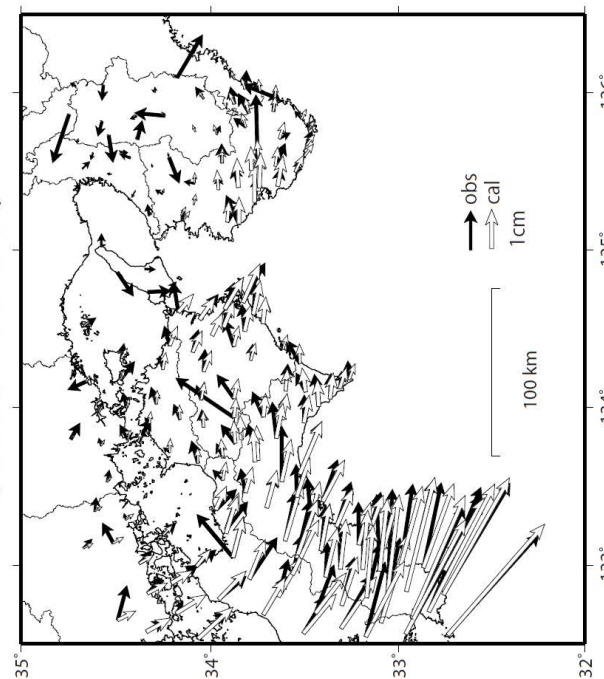
GNSSデータから推定された  
四国中部の長期的ゆっくりすべり（暫定）

推定すべり分布  
(2019/1/1 - 2021/2/9)



- A 四国西部の短期的ゆっくりすべり
- B 紀伊水道の長期的ゆっくりすべり
- C 豊後水道の長期的ゆっくりすべり
- D 四国中部の長期的ゆっくりすべり

観測値（黒）と計算値（白）の比較  
(2019/1/1 - 2021/2/9)



使用データ：F3解 (2019/1/1 - 2021/1/20) + R3解 (2021/1/21 - 2021/2/9) ※電子基準点の保守等による変動は補正済み  
トレンド期間：2017/1/1 - 2018/1/1（年周）・半年周成分は2017/1/1 - 2021/2/9のデータで補正）  
モーメント計算範囲：左図の黒枠内側

観測値：3日間の平均値をカルマンフィルタで平滑化した値  
黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線（弘瀬・他、2007）  
すべり方向：プレートの沈み込み方向と平行な方向に拘束

青丸：低周波地震（気象庁一元化震源）（期間：2019/1/1 - 2019/12/31）  
固定局：網野

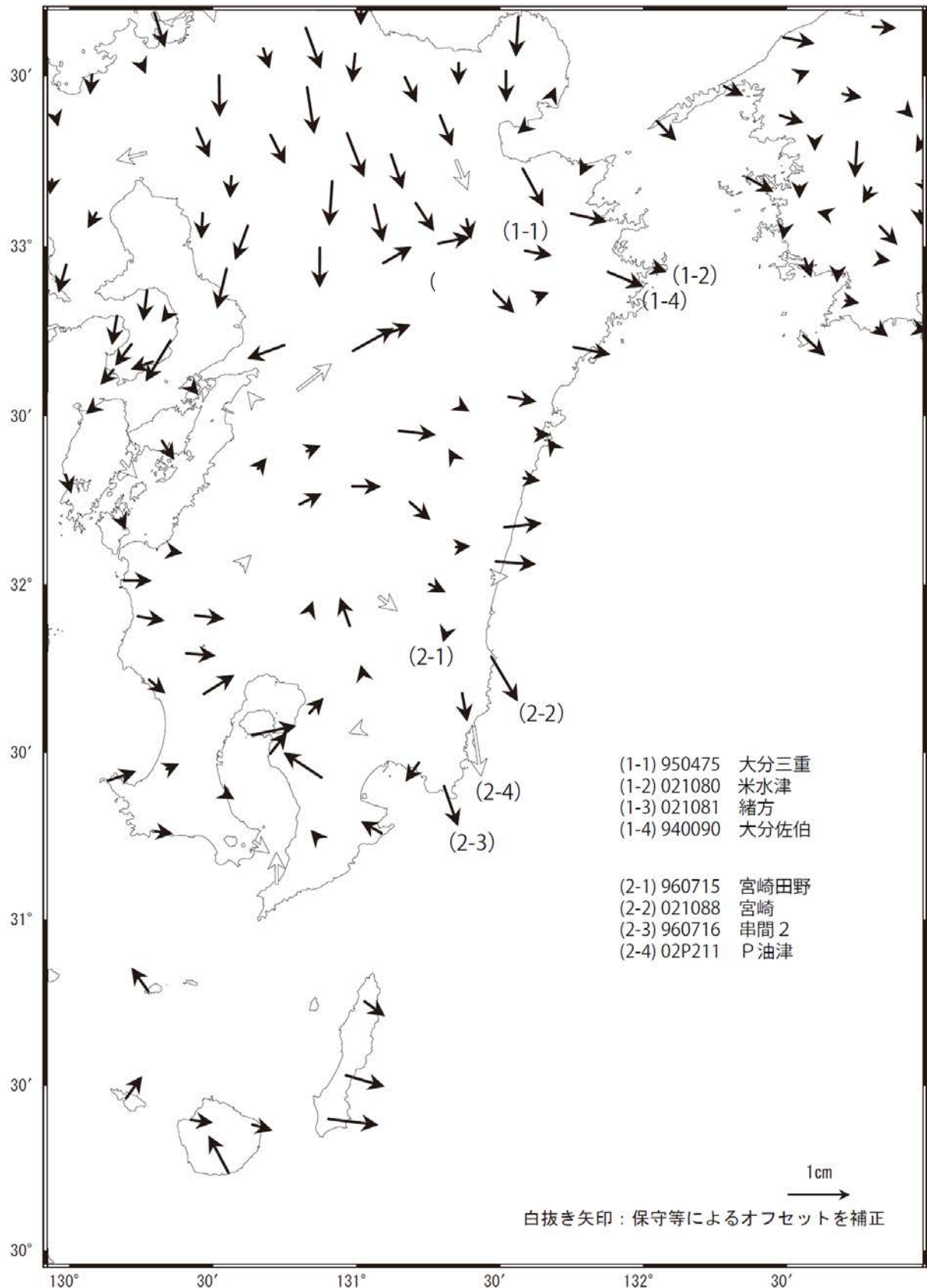


（国土地理院による GNSS 解析）

九州北部、南部の非定常水平地殻変動(1次トレンド・年周期・半年周期除去後)

基準期間：2020/01/01～2020/01/07[F3:最終解]  
比較期間：2021/02/14～2021/02/20[R3:速報解]

計算期間：2017/01/01～2017/12/31

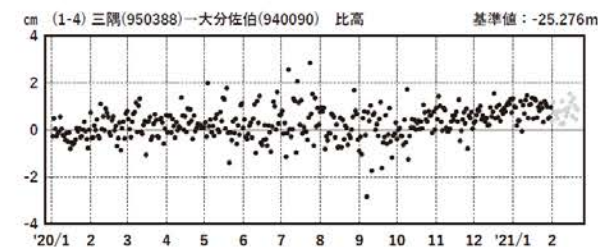
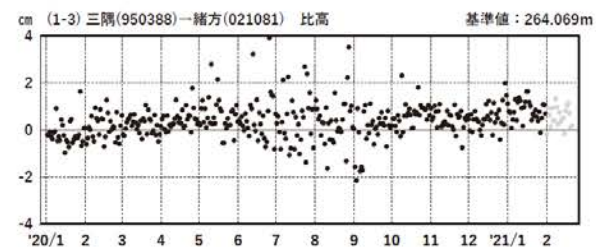
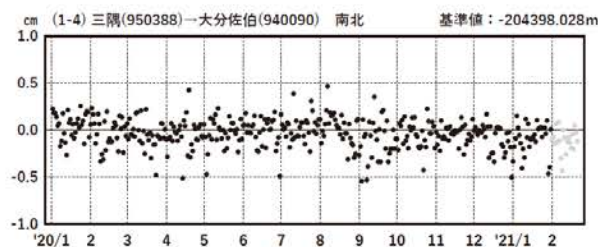
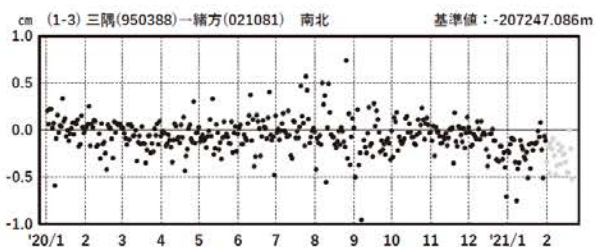
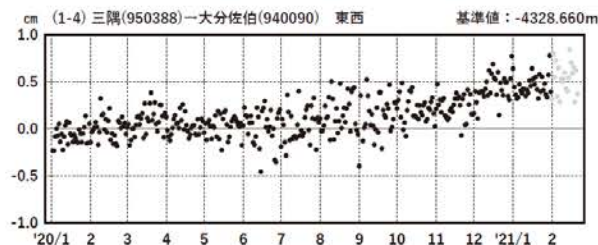
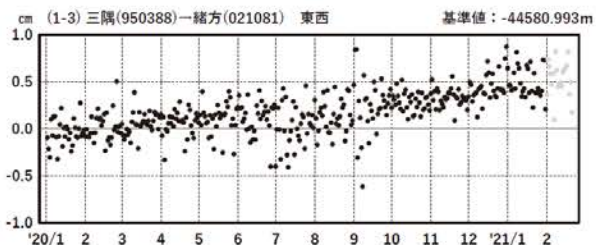
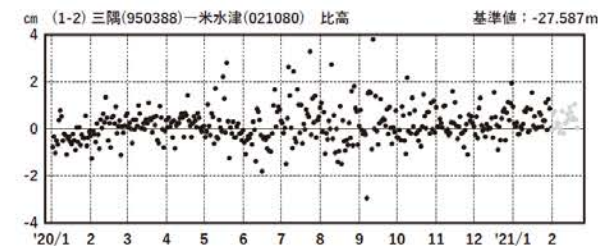
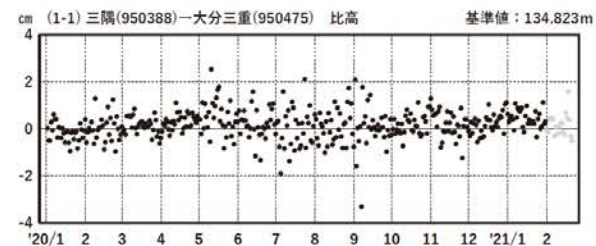
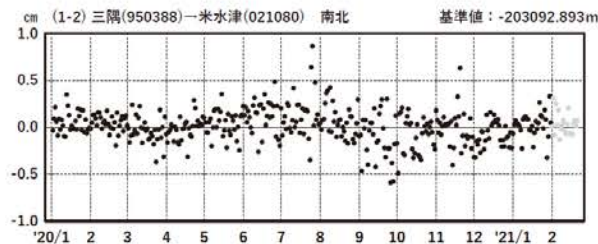
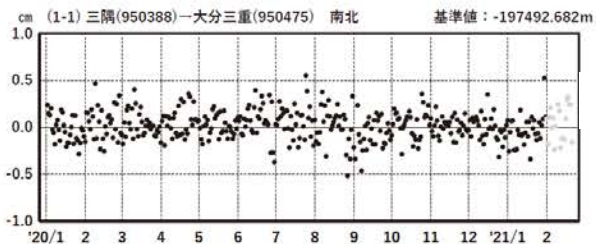
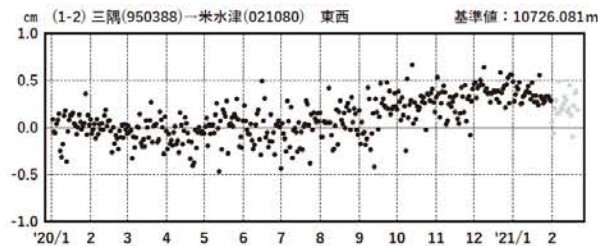
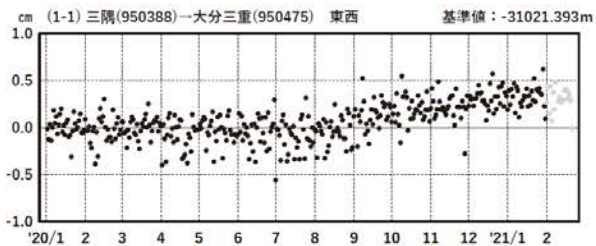


## 九州北部、南部 G N S S 連続観測時系列 (1)

1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

期間: 2017/01/01~2021/2/21 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01



●---[F3:最終解]    ●---[R3:速報解]

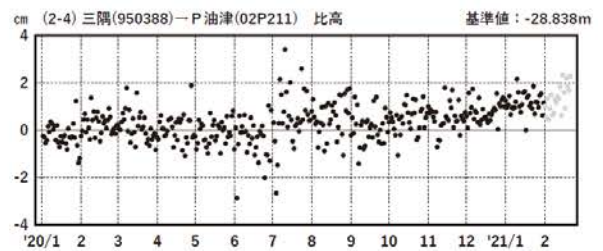
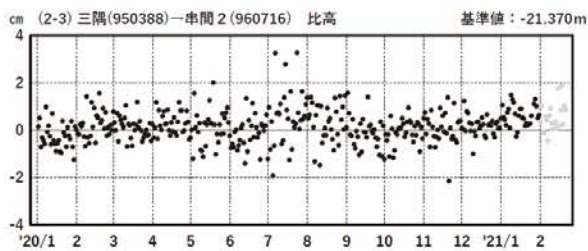
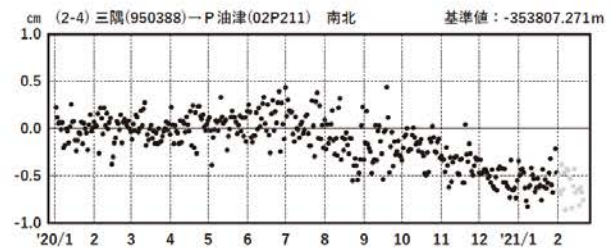
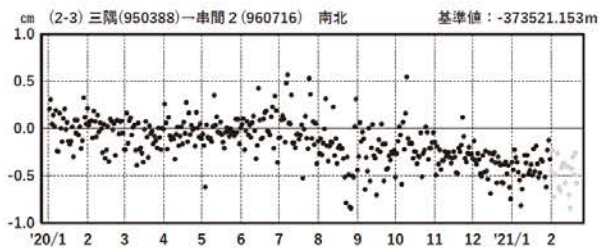
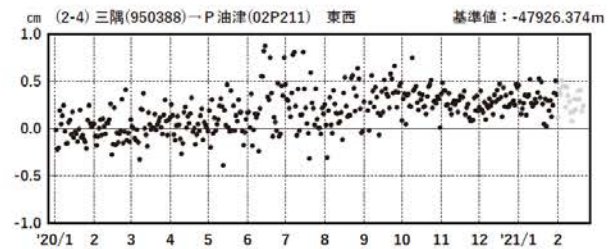
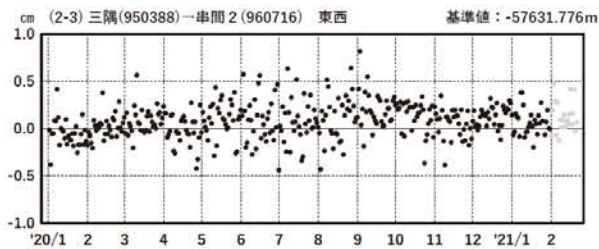
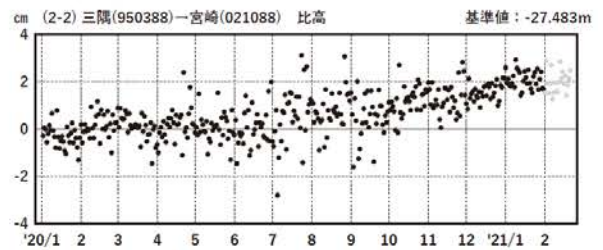
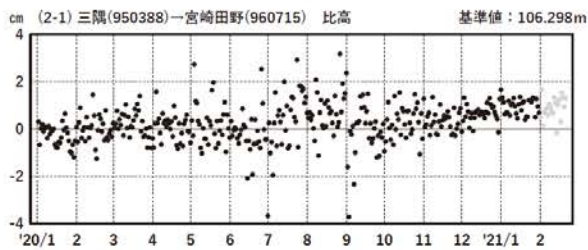
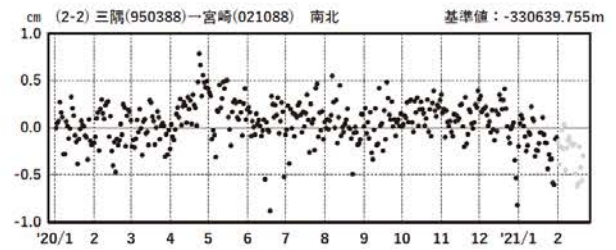
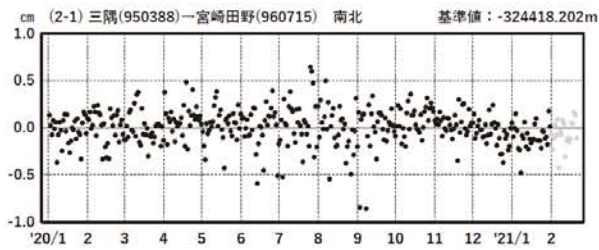
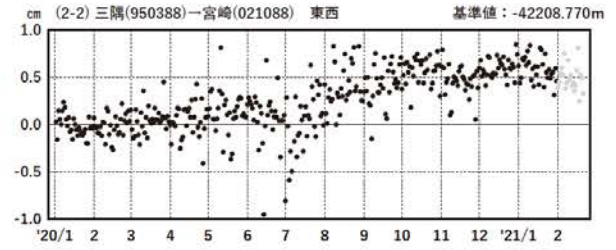
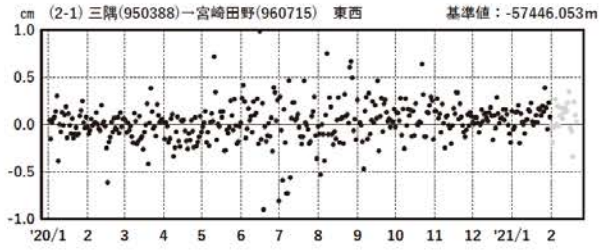
国土地理院

## 九州北部、南部 GNSS連続観測時系列(2)

1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

期間: 2017/01/01~2021/2/21 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01

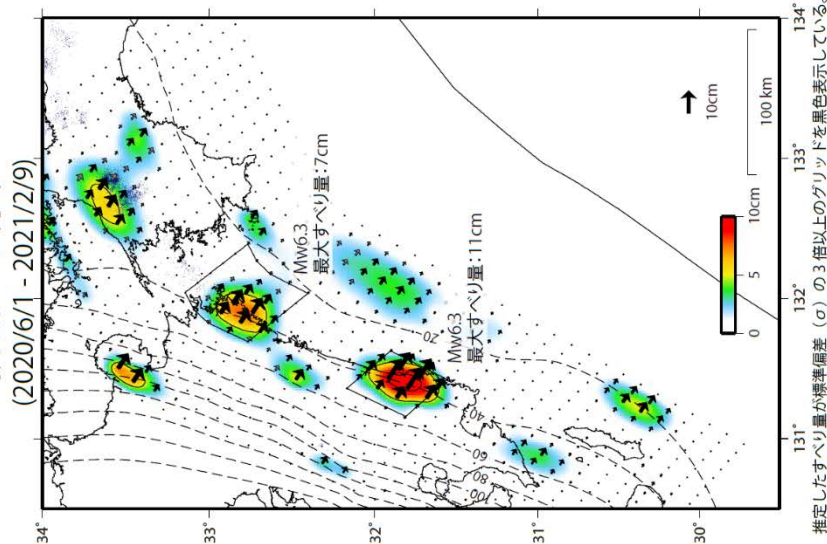


●---[F3:最終解]    ●---[R3:速報解]

国土地理院

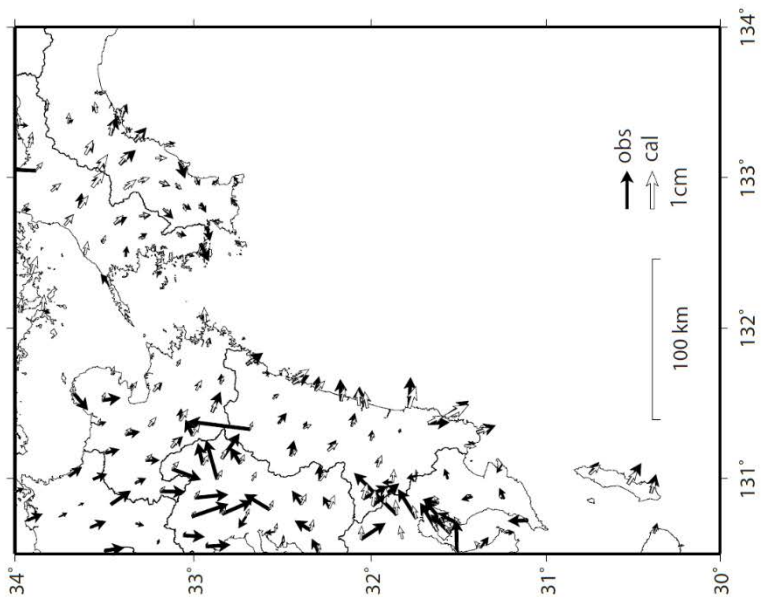
GNSSデータから推定された  
日向灘北部、南部の長期的ゆっくりすべり（暫定）

推定すべり分布



推定したすべり量が標準偏差（σ）の3倍以上のグリッドを黒色表示している。

観測値（黒）と計算値（白）の比較  
(2020/6/1 - 2021/2/9)



使用データ：F3解 (2020/1/1 - 2021/1/23) + R3解 (2021/1/24 - 2021/2/9) ※電子基準点の保守等による変動は補正済み  
トレンド期間：2017/1/1 - 2018/1/1  
(年周・半年周成分は、種子島周辺は2017/1/1-2019/1/1、それ以外の地域は2017/1/1 - 2021/2/9のデータで補正)  
モーメント計算範囲：左図の黒枠内側

観測値：3日間の平均値をカルマンフィルタで平滑化した値  
黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線（弘瀬・他、2007）  
すべり方向：プレートの沈み込み方向と平行な方向に拘束  
青丸：低周波地震（気象庁一元化震源）（期間：2019/1/1 - 2019/12/31）  
固定局：三隅

紀伊半島南東沖の微動活動(2021年2月)

- ・活動は低下傾向.
- ・DONET1 直下の領域で断続的に小規模な活動. 2月17-20日にやや活発化.
- ・2月17-21日に室戸沖で小規模な活動.

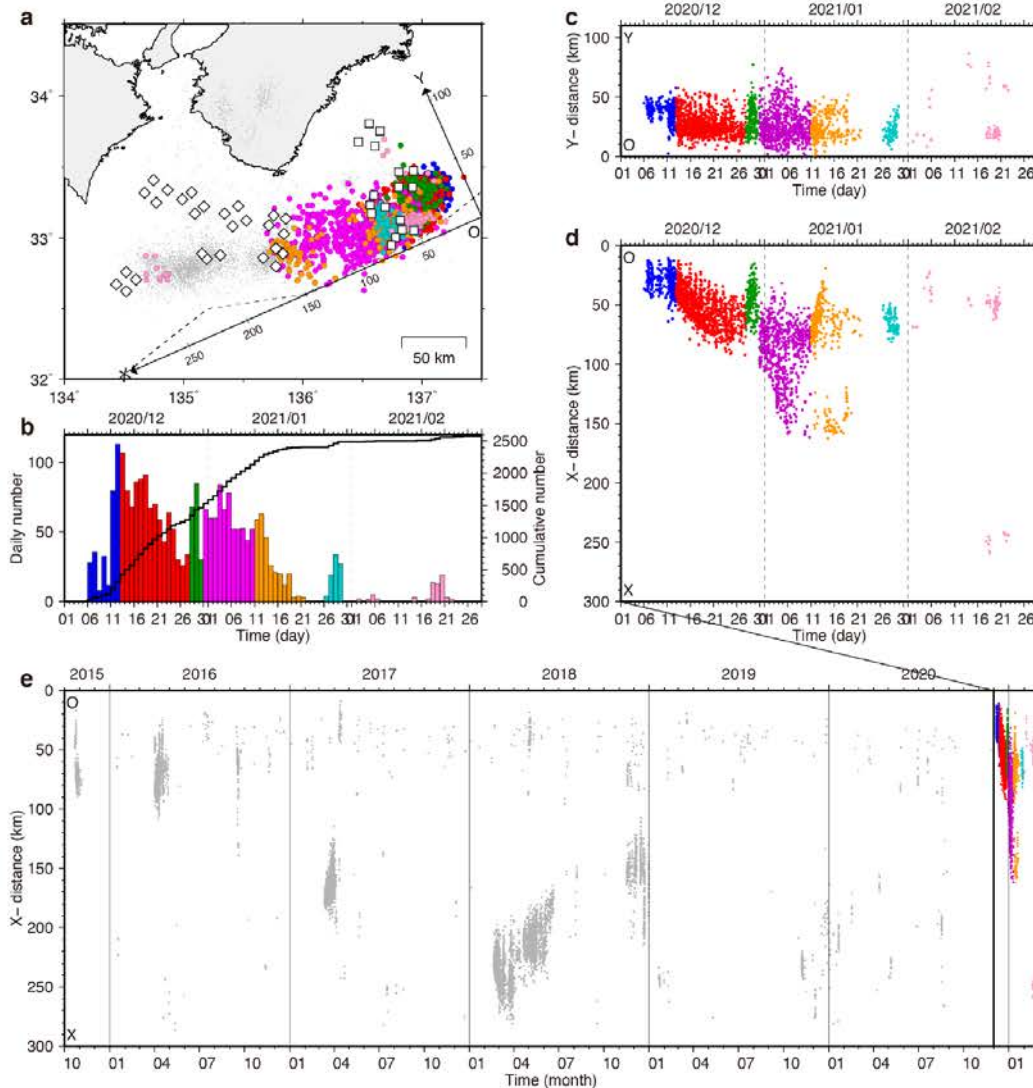


図1：微動の時空間分布。(a)震央分布。色は期間に対応(b参照)。2020年11月以前(2015年10月から)の微動を灰色の点で示す。□◇はそれぞれDONET1, DONET2観測点。点線は海溝軸。微動の検出・震源決定にはエンベロープ相関法コード(Ide, 2010; Ohta et al., 2019)を用い、DONET1およびDONET2の水平2成分速度波形(2-6Hz)を使用。検出されたイベントの内、継続時間20秒以上、震央誤差10km以内、群発条件(1日&20km以内に4イベント以上)を満たすものを微動として採用。2月はDONET1直下(X軸50km付近)と室戸沖(X軸250km付近)に活動あり。(b)検出数の日別ヒストグラムと累積。断続的に小規模な活動。(c)震央の時空間分布。傾斜方向(Y軸)に投影。(d)走向方向(X軸)に投影。2月17-20日に紀伊半島沖でやや活発化。2月17-21日に室戸沖で小規模な活動。(e)2015年10月-2021年2月の全微動の時空間分布(X軸投影)。

紀伊半島南東沖における孔内地殻変動観測

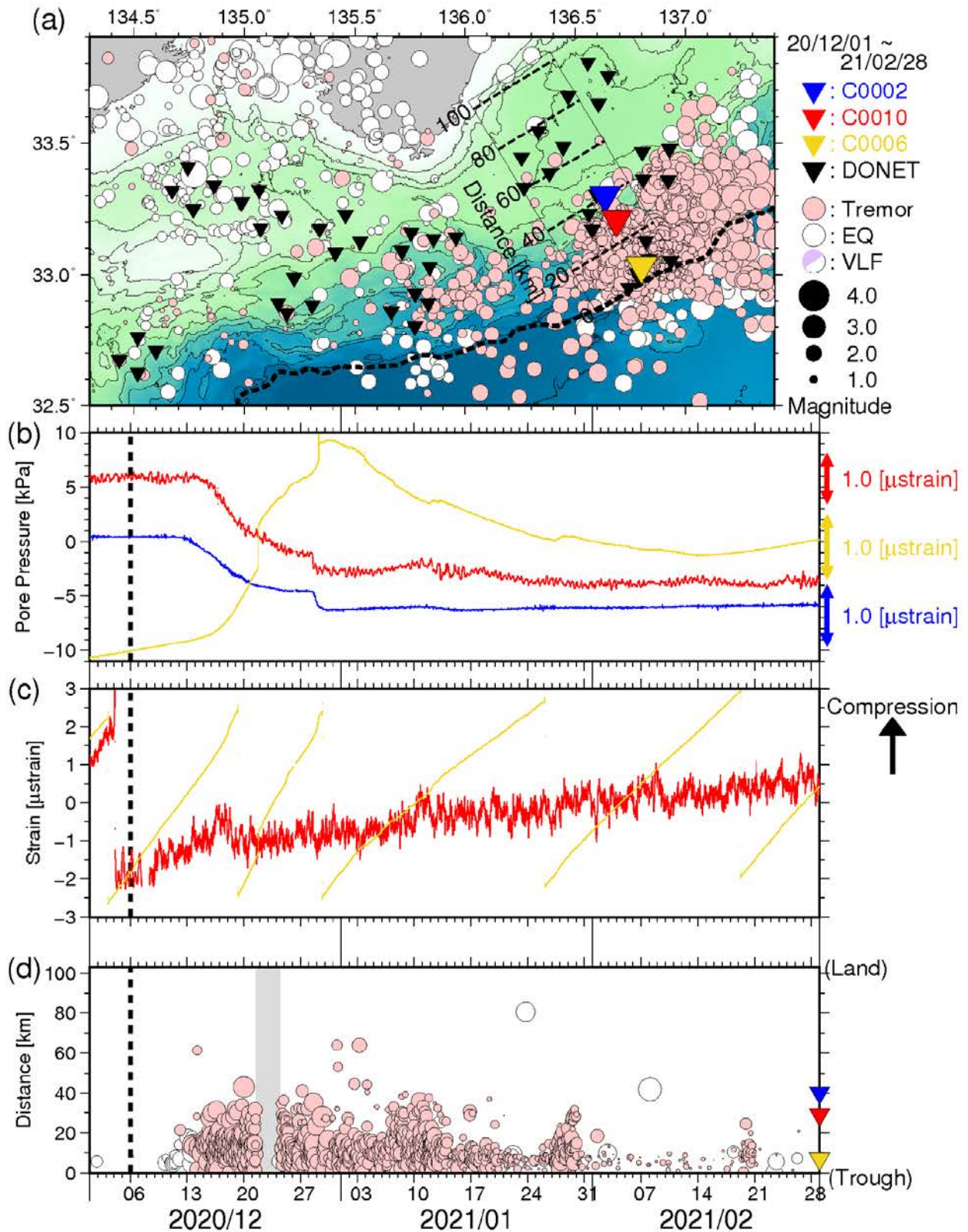


図8 直近3ヶ月間のSSE・低周波微動モニタリング（2020年12月1日～2021年2月28日）。点線（2020年12月6日）は低周波微動が活発化した時刻。12月7日～8日、21日～24日はサーバ不具合・入替のため、各期間において一部データが欠測している（灰色部分は未収録）。

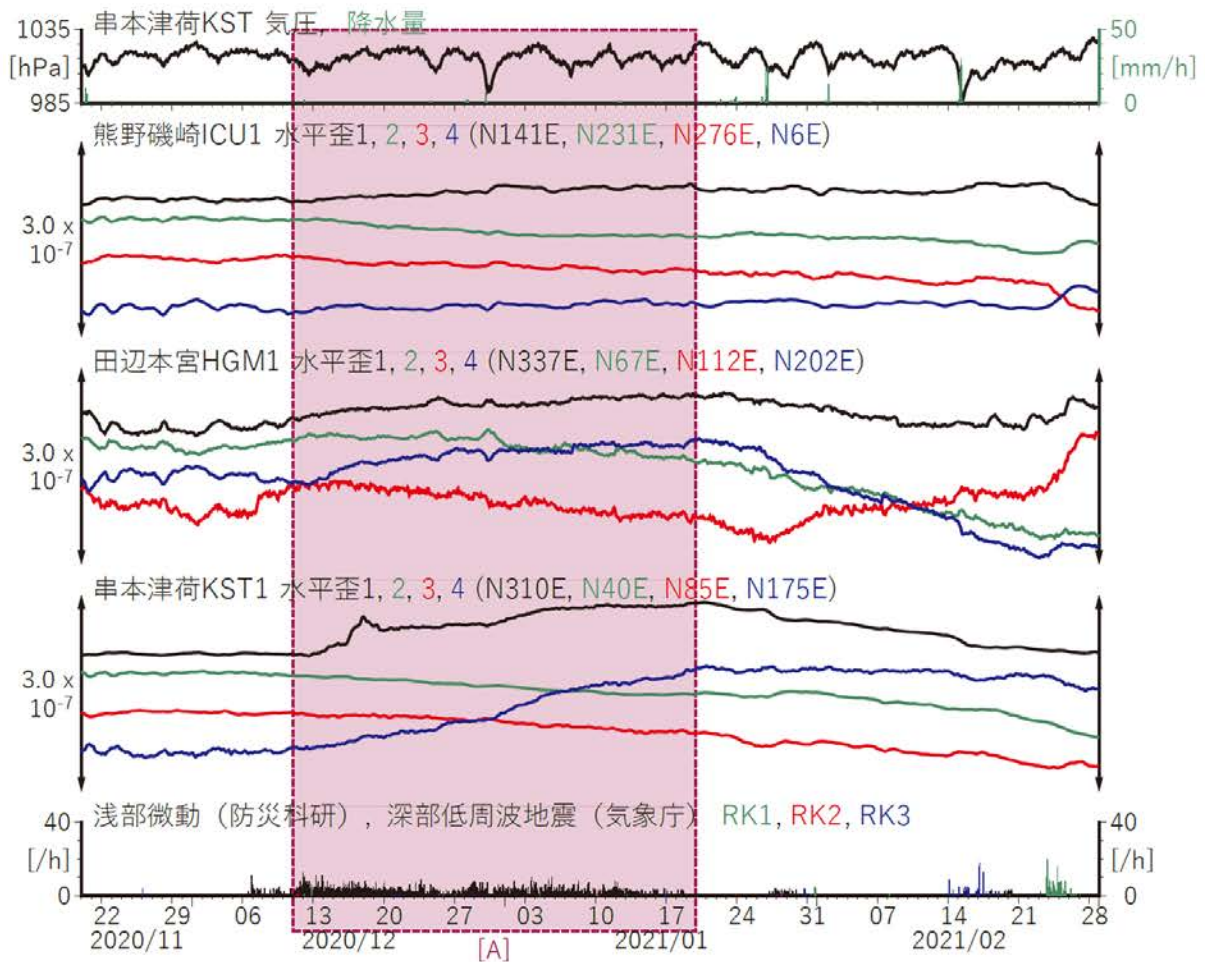


図10 紀伊半島における歪観測結果 (2020/11/20 00:00 - 2021/03/01 00:00 (JST)).

微動データは防災科学技術研究所提供.

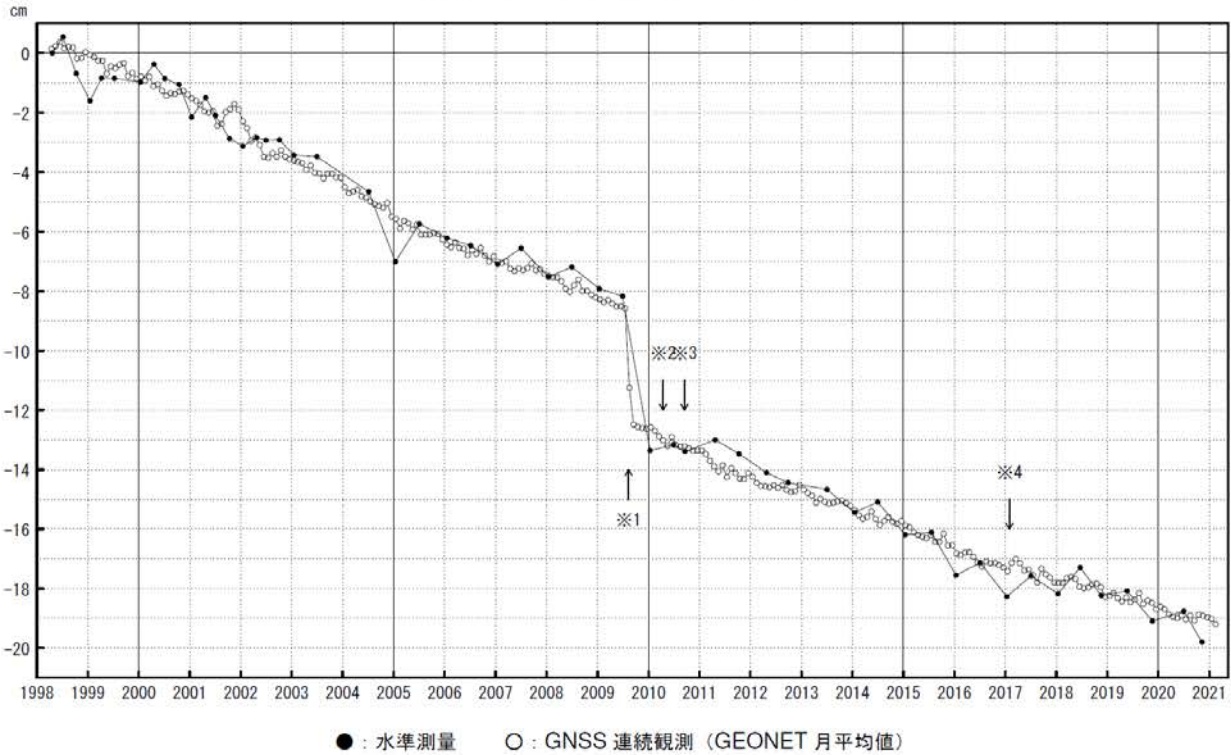
歪データは気圧応答・潮位偏差応答・1次トレンド除去. 潮位偏差データは気象庁提供.

## 御前崎 電子基準点の上下変動

### 水準測量とGNSS連続観測

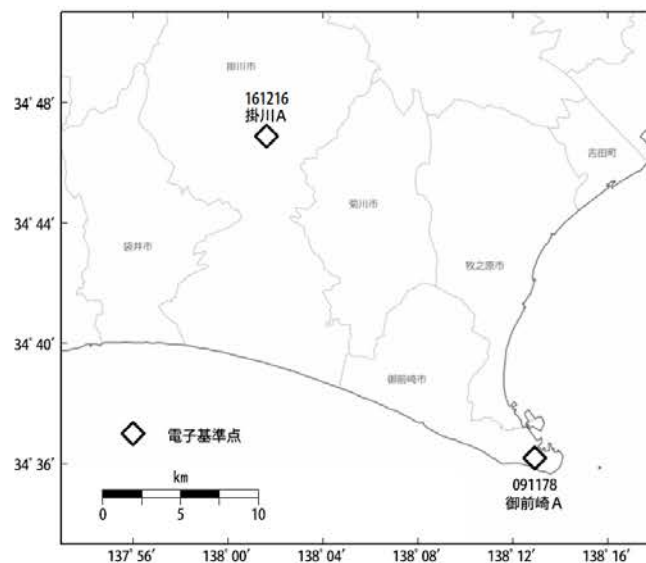
掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。

掛川 A (161216) - 御前崎 A (091178)



・最新のプロット点は2/1～2/6の平均。

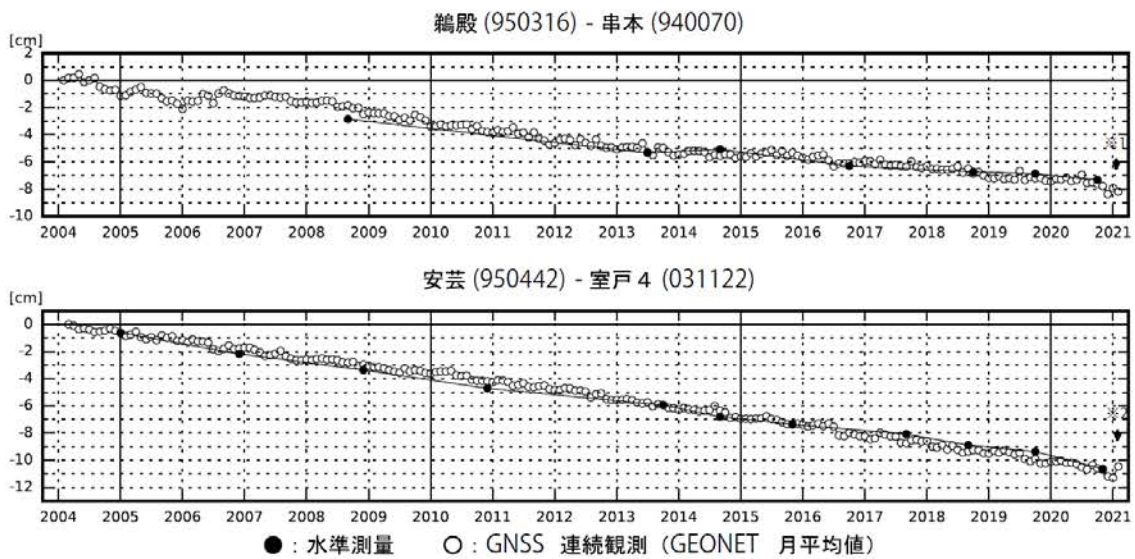
- ※1 電子基準点「御前崎」は2009年8月11日の駿河湾の地震(M6.5)に伴い、地表付近の局所的な変動の影響を受けた。
- ※2 2010年4月以降は、電子基準点「御前崎」をより地盤の安定している場所に移転し、電子基準点「御前崎A」とした。上記グラフは電子基準点「御前崎」と電子基準点「御前崎A」のデータを接続して表示している。
- ※3 水準測量の結果は移転後初めて変動量が計算できる2010年9月から表示している。
- ※4 2017年1月30日以降は、電子基準点「掛川」は移転し、電子基準点「掛川A」とした。上記グラフは電子基準点「掛川」と電子基準点「掛川A」のデータを接続して表示している。





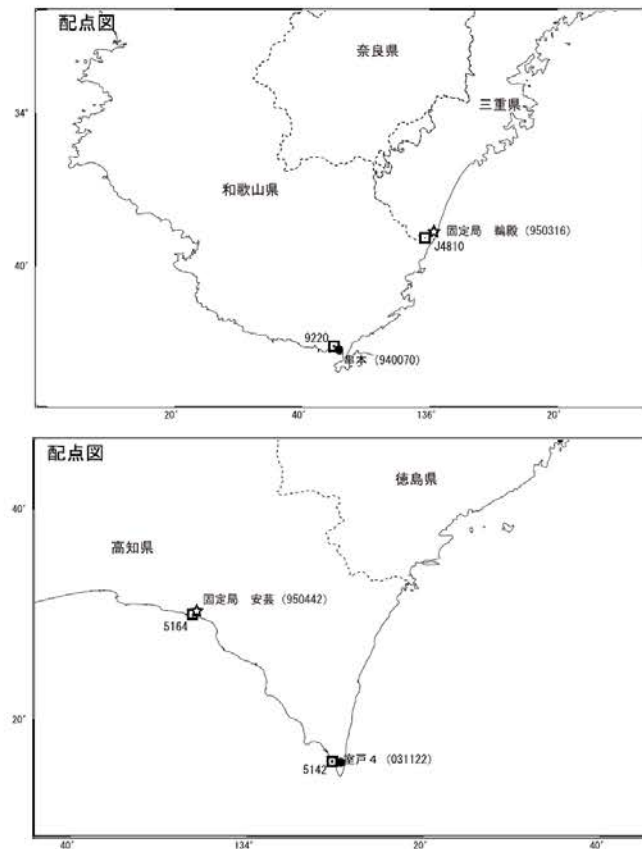
紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。



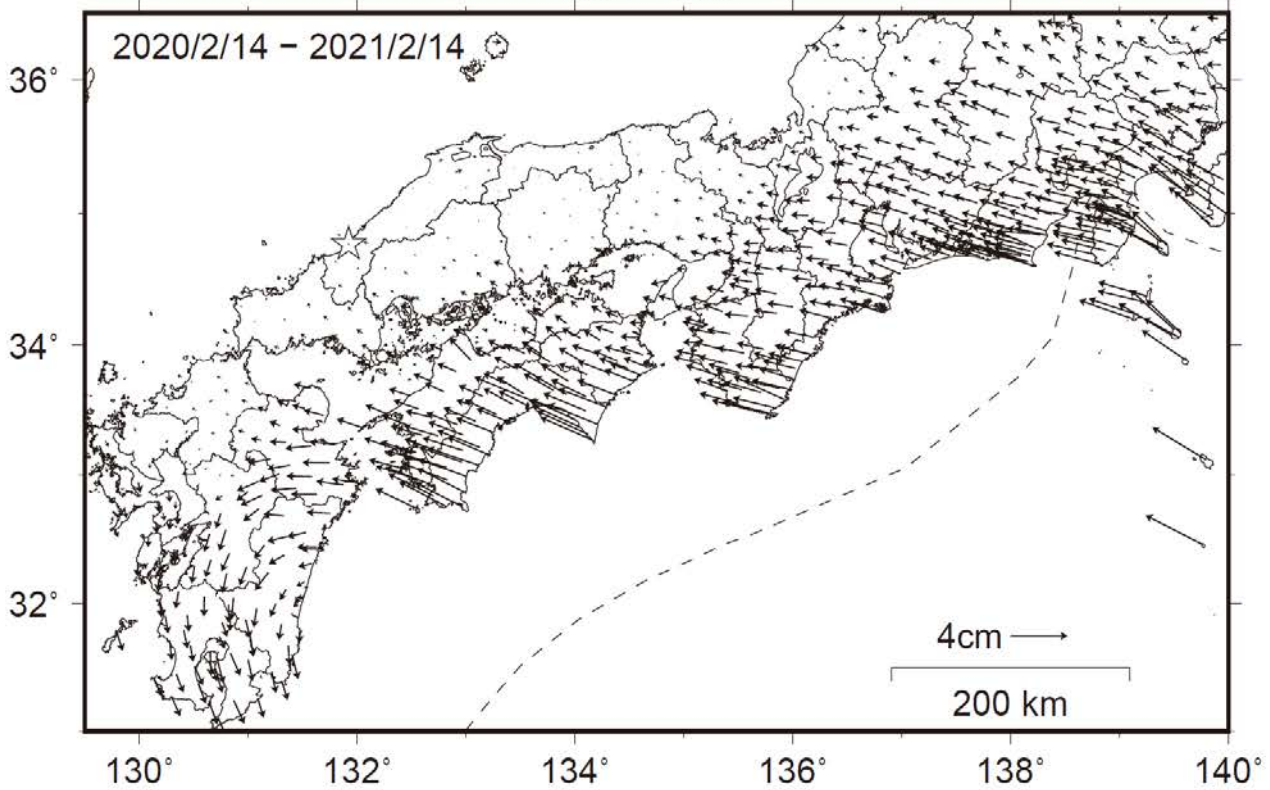
- ・ 最新のプロット点は 2/1~2/6 の平均。
- ・ 水準測量による結果については、最寄り的一等水準点の結果を表示している。

※ 1 2021/1/9に電子基準点「串本」のアンテナ更新及びレドーム交換を実施した。  
 ※ 2 2021/2/2に電子基準点「安芸」のアンテナ更新及びレドーム交換を実施した。

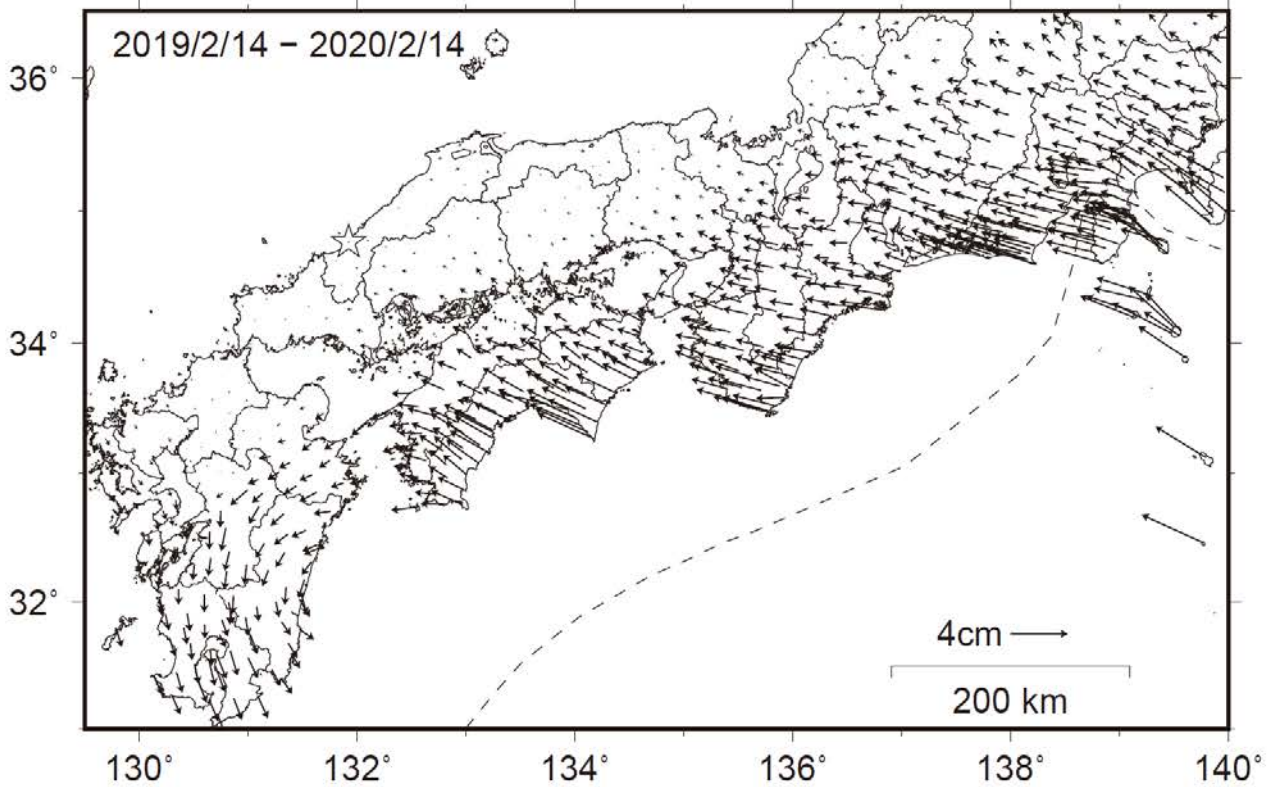


南海トラフ沿いの水平地殻変動【固定局：三隅】

【最近1年間】



【1年前の1年間】



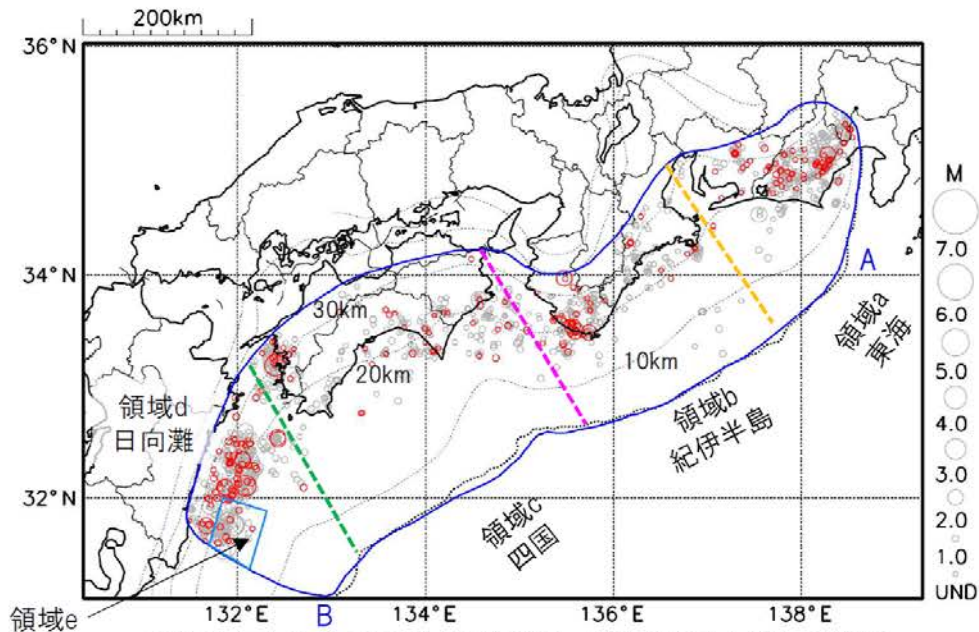
・各日付 ± 6日の計 13日間の変動量の中央値をとり、その差から1年間の変動量を表示している。

## プレート境界とその周辺の地震活動

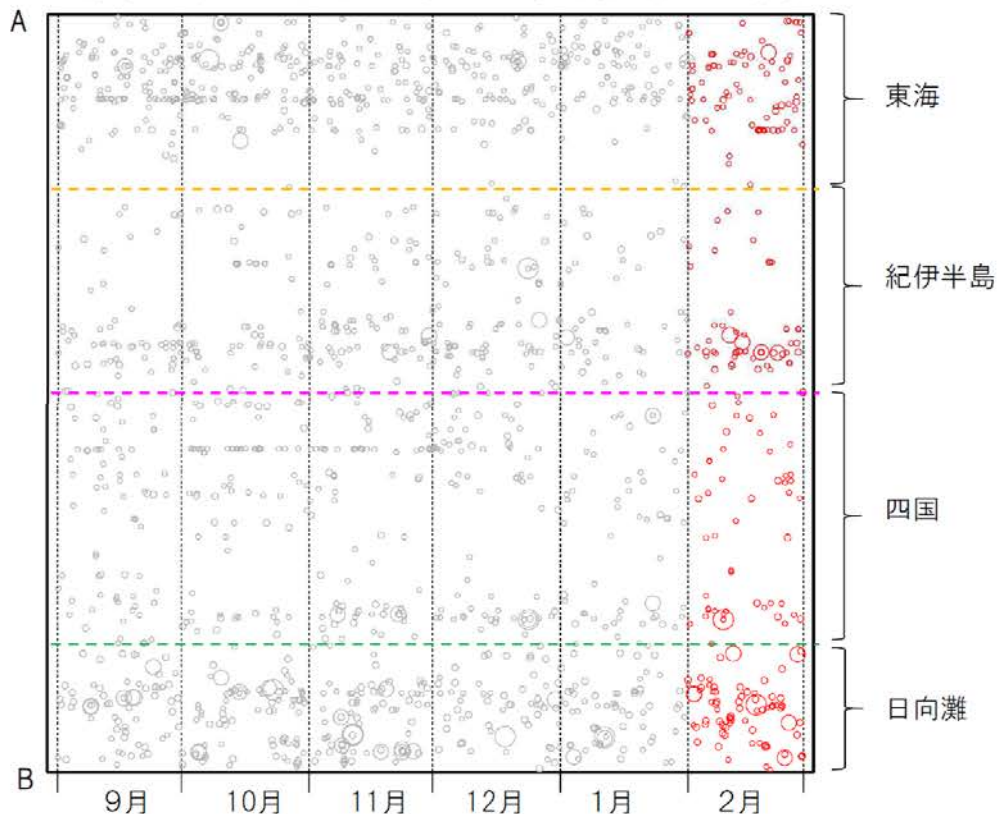
フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。  
日向灘の領域e内のみ、深さ20km～30kmの地震を追加している。

震央分布図

(2020年9月1日～2021年2月28日、M全て、2021年2月の地震を赤く表示)



南海トラフ巨大地震の想定震源域内の時空間分布図(A-B投影)



・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。

・今期間の地震のうち、M3.2以上の地震で想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震に吹き出しを付している。吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差（+は浅い、-は深い）を示す。

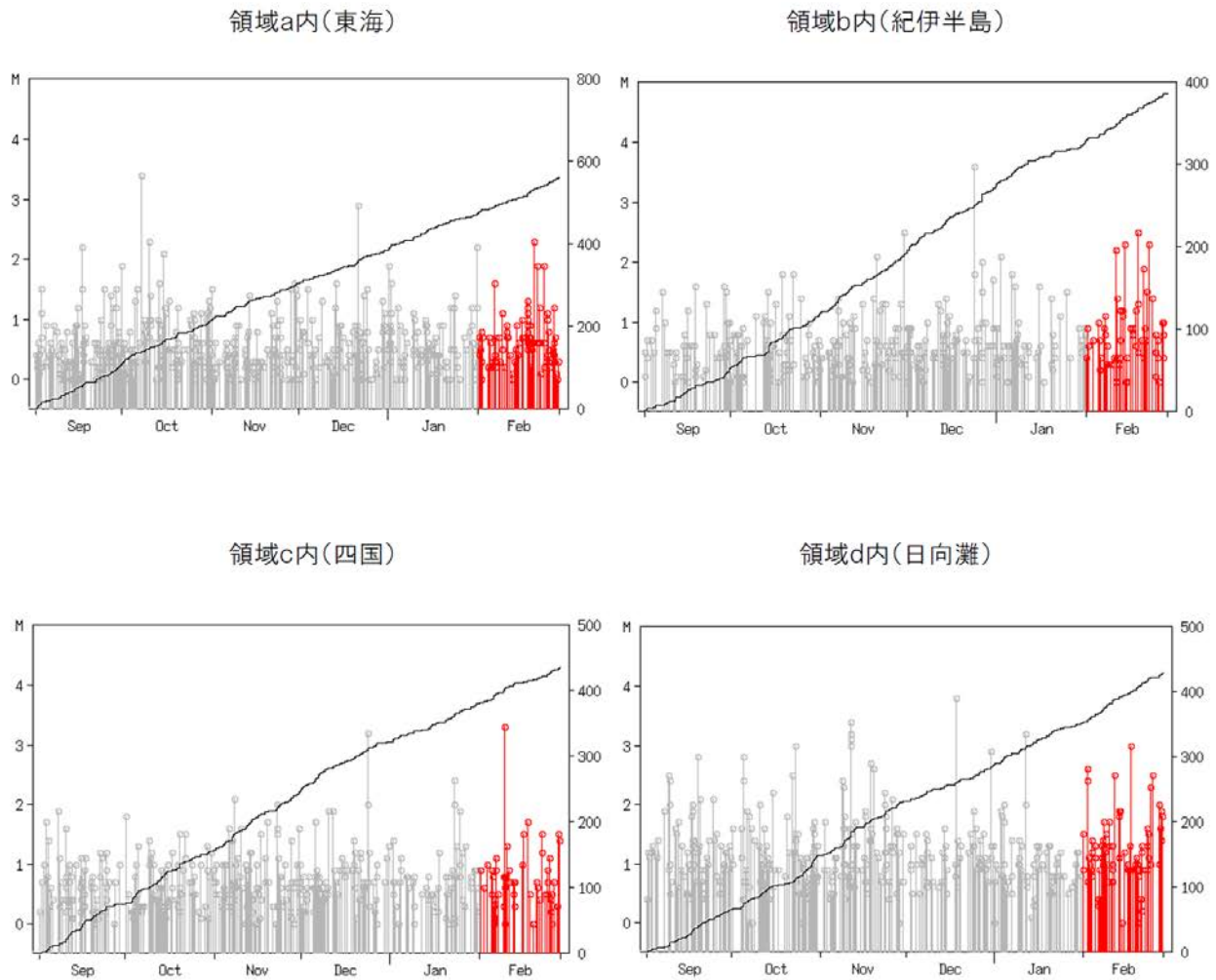
・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

気象庁作成

## プレート境界とその周辺の地震活動

フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。

震央分布図の各領域内のMT図・回数積算図



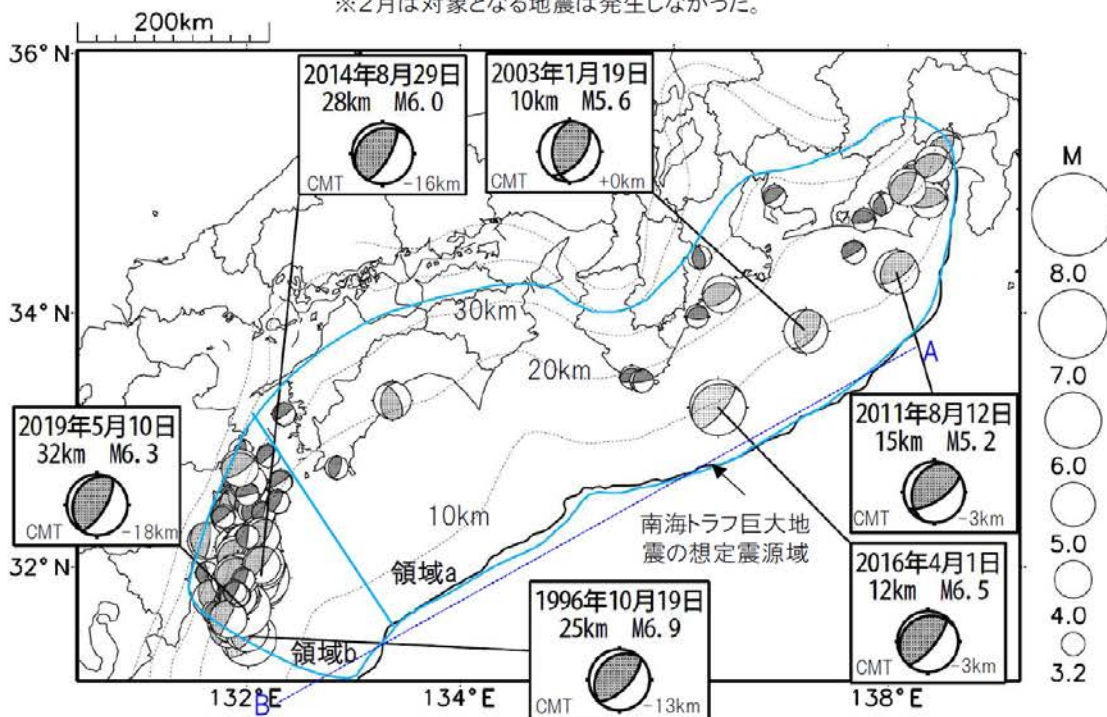
※M全ての地震を表示していることから、検知能力未満の地震も表示しているため、回数積算図は参考として表記している。

気象庁作成

## 想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震

震央分布図(1987年9月1日～2021年2月28日、M $\geq$ 3.2、2021年2月の地震を赤く表示)

※2月は対象となる地震は発生しなかった。



・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。

・今期間に発生した地震(赤)、日向灘のM6.0以上、その他の地域のM5.0以上の地震に吹き出しを付けている。

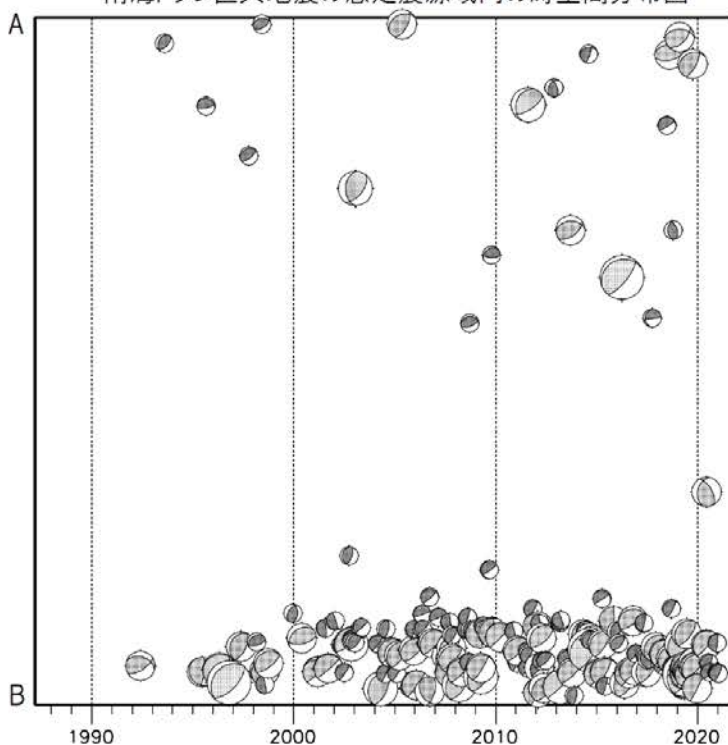
・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

・吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差を示す。+は浅い、-は深いことを示す。

・吹き出しに「CMT」と表記した地震は、発震機構解と深さはCMT解による。Mは気象庁マグニチュードを表記している。

・発震機構解の解析基準は、解析当時の観測網等に応じて変遷しているため一定ではない。

南海トラフ巨大地震の想定震源域内の時空間分布図



プレート境界型の地震と類似の型の発震機構解を持つ地震は以下の条件で抽出した。

**【抽出条件】**

- ・M3.2以上の地震
- ・領域a内(南海トラフの想定最大規模の想定震源域内)で発生した地震
- ・発震機構解が以下の条件を全て満たしたものを抽出した。

P軸の傾斜角が45度以下

P軸の方位角が65度以上180度以下(※)

T軸の傾斜角が45度以上

N軸の傾斜角が30度以下

※以外の条件は、東海地震と類似の型を抽出する条件と同様

・発震機構解は、CMT解と初動解の両方で検索をした。

・同一の地震で、CMT解と初動解の両方がある場合はCMT解を選択している。

・東海地方から四国地方(領域a)は、フィリピン海プレート上面の深さから±10km未満の地震のみ抽出した。日向灘(領域b)は、+10km～-20km未満の震源を抽出した。CMT解はセントロイドの深さを使用した。

気象庁作成

## 南海トラフ巨大地震の想定震源域とその周辺の地震活動指数

2021年2月28日

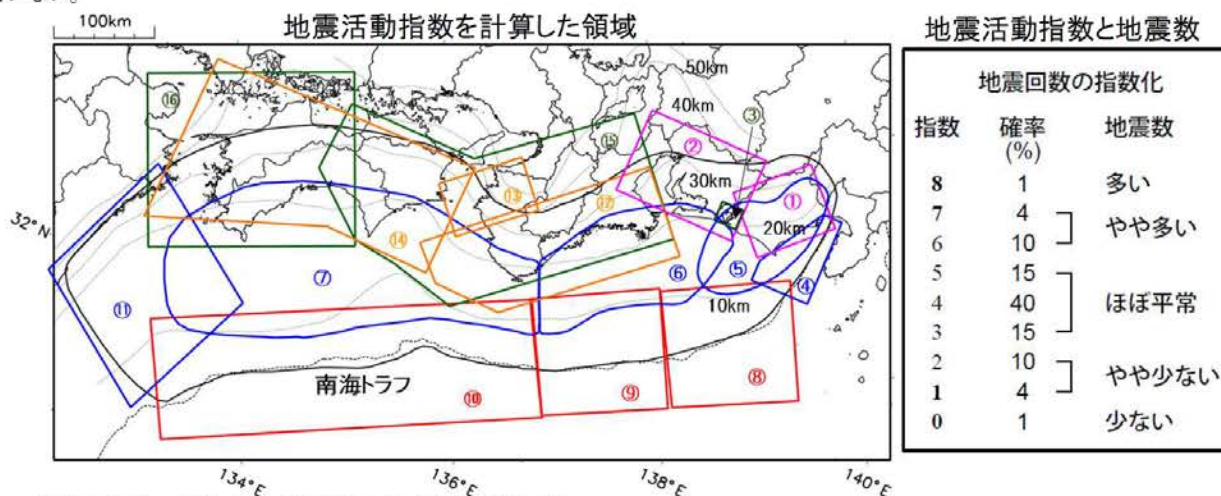
領域	①静岡県 中西部		②愛知県		③浜名湖 周辺	④駿河 湾	⑤東海	⑥南海	⑦南海
	地	プ	地	プ	プ	全	全	全	全
地震活動指数	3	4	4	3	7	4	2	3	6
平均回数	16.5	18.5	26.5	13.7	13.5	13.2	18.2	19.4	21.3
MLさい値	1.1		1.1		1.1	1.4	1.5	2.0	2.0
クラスタ 除去	距離	3km		3km		3km	10km	10km	10km
	日数	7日		7日		7日	10日	10日	10日
対象期間	60日	90日	60日	30日	360日	180日	90日	360日	90日
深さ	0～ 30km	0～ 60km	0～ 30km	0～ 60km	0～ 60km	0～ 60km	0～ 60km	0～ 100km	0～ 100km

領域	南海トラフ沿い		⑪日向 灘	⑫紀伊 半島	⑬和歌 山	⑭四国	⑮紀伊半 島	⑯四国
	⑧東側	⑩西側						
	全	全	全	地	地	地	プ	プ
地震活動指数	5	1	4	3	4	4	8	6
平均回数	12.0	14.7	20.6	22.8	41.8	30.5	27.8	28.1
MLさい値	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
クラスタ 除去	距離	10km	10km	10km	3km	3km	3km	3km
	日数	10日	10日	10日	7日	7日	7日	7日
対象期間	720日	360日	60日	120日	60日	90日	30日	30日
深さ	0～ 100km	0～ 100km	0～ 100km	0～ 20km	0～ 20km	0～ 20km	20～ 100km	20～ 100km

\* 基準期間は、全領域1997年10月1日～2021年2月28日

\* 領域欄の「地」は地殻内、「プ」はフィリピン海プレート内で発生した地震であることを示す。ただし、震源の深さから便宜的に分類しただけであり、厳密に分離できていない場合もある。「全」は浅い地震から深い地震まで全ての深さの地震を含む。

\* ⑨の領域(三重県南東沖)は、2004年9月5日以降の地震活動の影響で、地震活動指数を正確に計算できないため、掲載していない。



\* 黒色実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す。

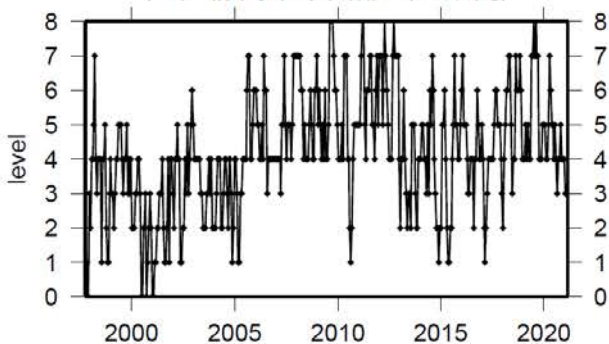
\* Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるプレート境界の等深線を破線で示す。

気象庁作成

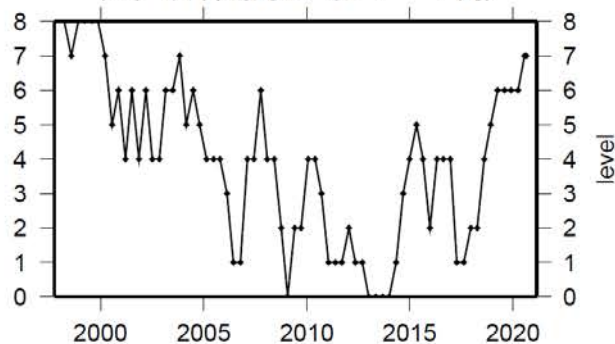
地震活動指数一覧

2021年02月28日

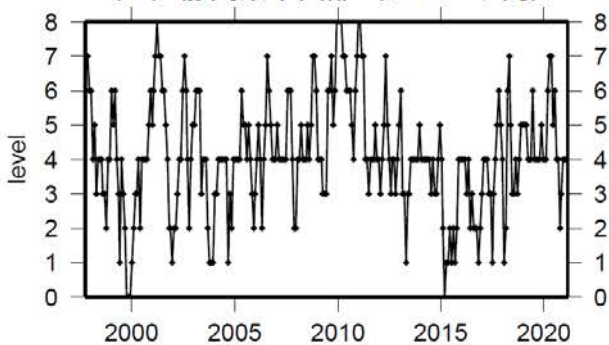
(1) 静岡県中西部（地殻内）



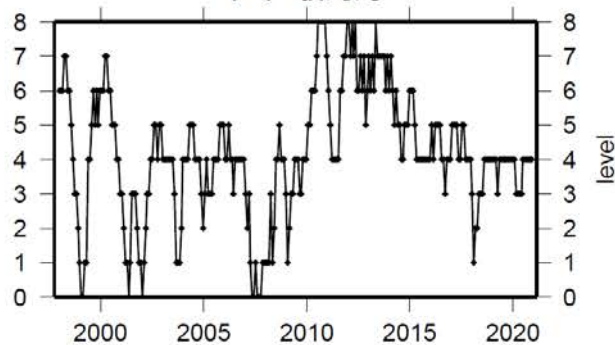
(3) 浜名湖周辺（プレート内）



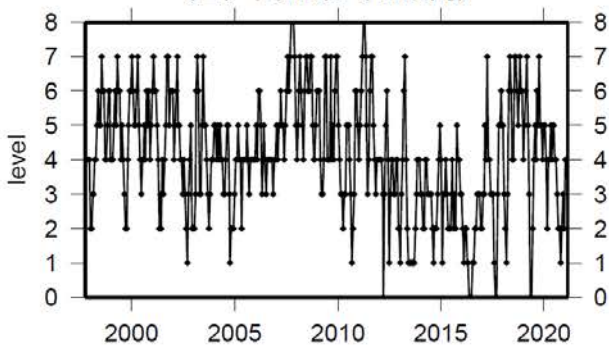
(1) 静岡県中西部（プレート内）



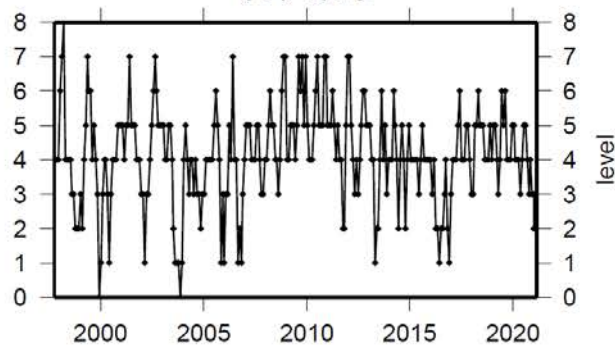
(4) 駿河湾



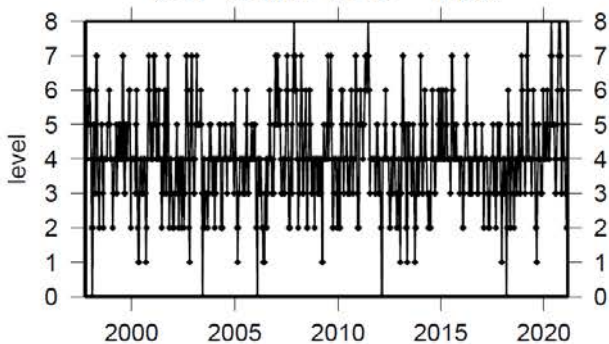
(2) 愛知県（地殻内）



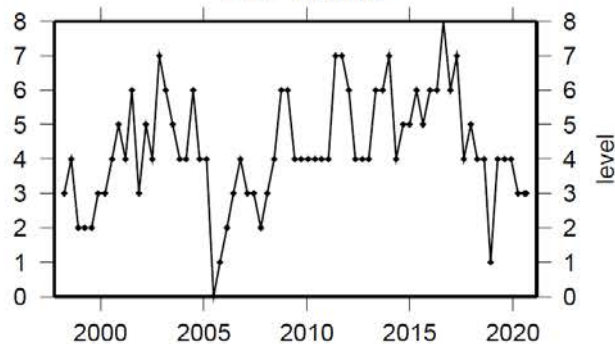
(5) 東海



(2) 愛知県（プレート内）



(6) 東南海

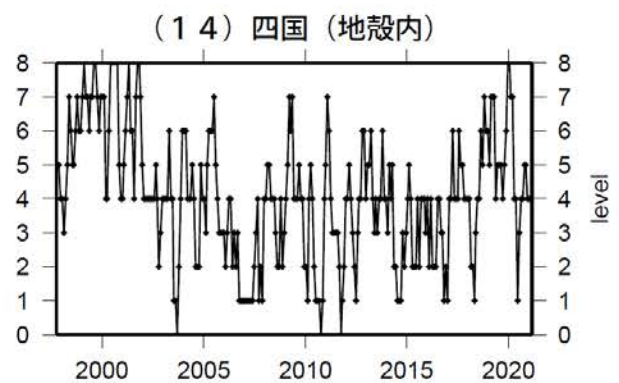
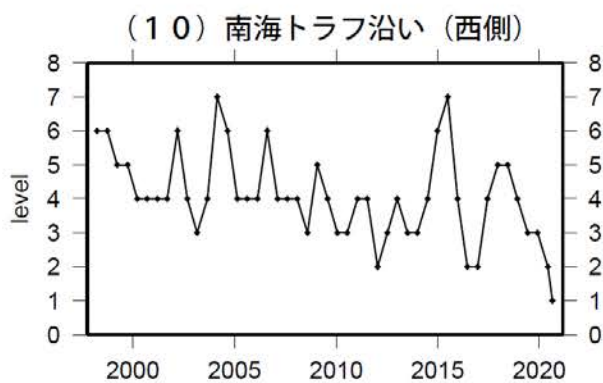
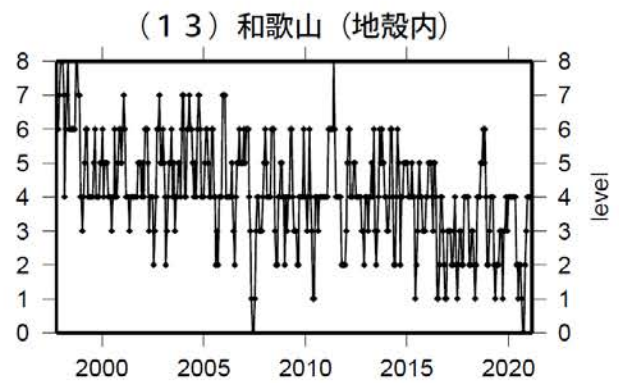
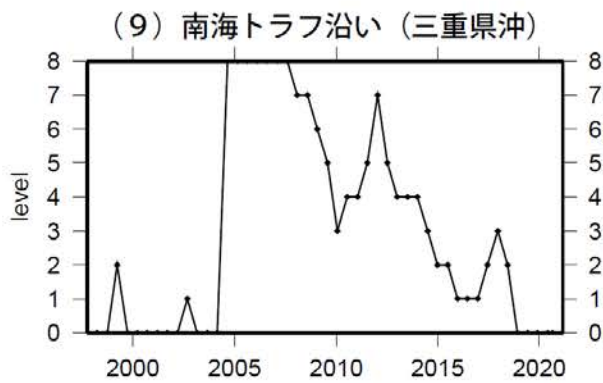
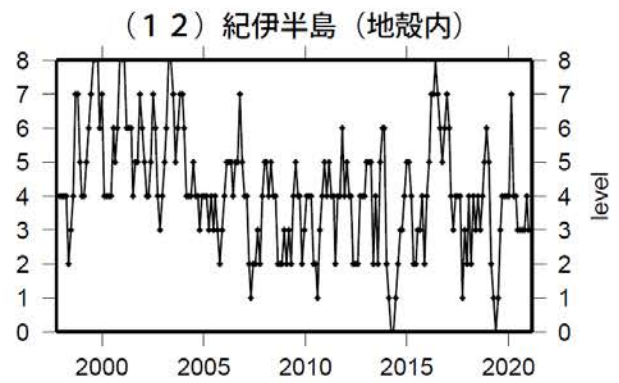
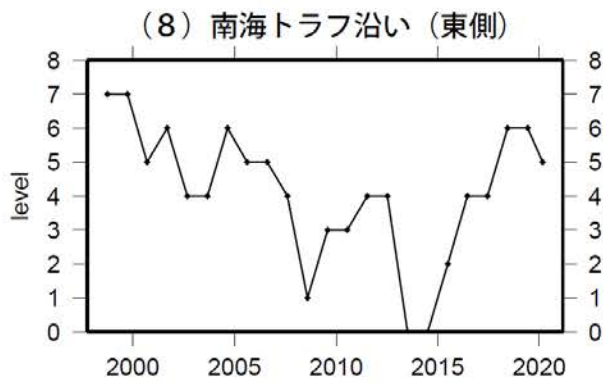
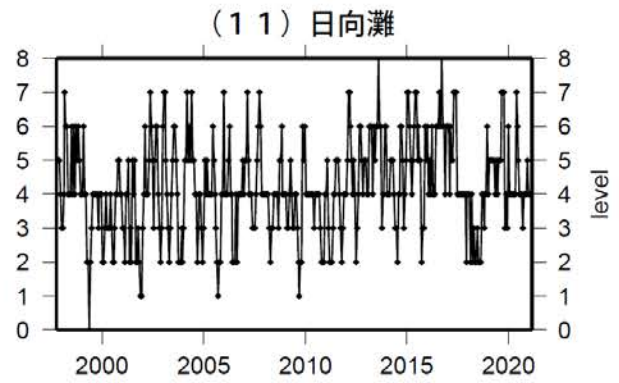
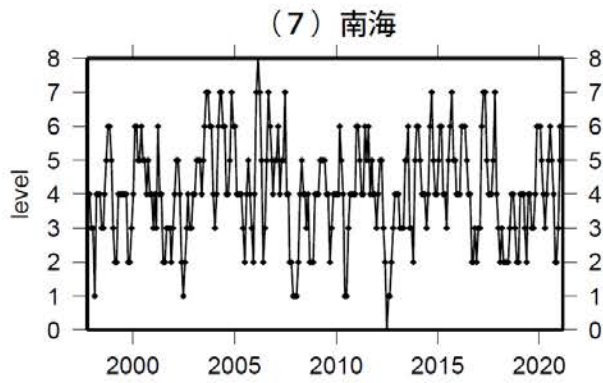


活動指数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率 (%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少		← 平常				→		多

気象庁作成

地震活動指数一覧

2021年02月28日



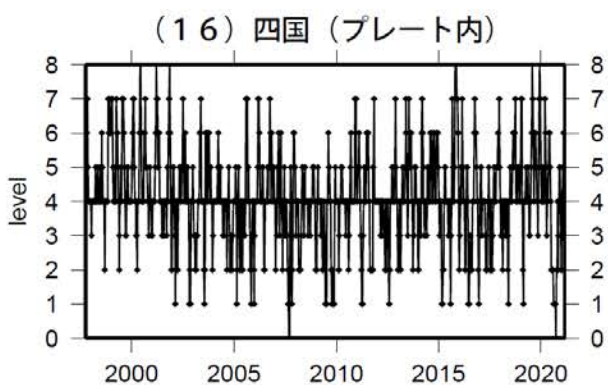
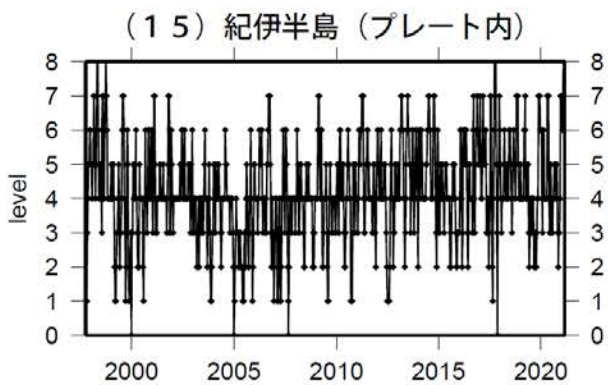
活動指数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率 (%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少	←		平常	→		多		

気象庁作成



地震活動指数一覧

2021年02月28日



活動指数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率 (%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少	← 平常		→		多			

気象庁作成